いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS 2022年夏 150

緊急特集

広がる ウクライナ支援の輪

巻頭言

情報の大海原を航海する時代

佐藤 正隆
アジア協会アジア友の会
理事

僕が20歳の時、西暦２０００年を迎えました。当時はミュージシャンを目指していたので、社会人でもなく子どもでもない時期を数年過ごしていました。その後、初めてまともに就職したのがＩＴ・ＷＥＢ領域で、ちょうど２００５年でした。起業する3年前です。

当時の会社では通信機器の営業販売から開始しましたが、インターネット検索はあったものの、まだ営業は訪問し、見積書も持参、すべてが対面で行われる時代でした。ビジネスの商圏も地域内で十分成立する時代でした。

今、コロナなどで社会は激変し、多くがオンラインになり営業も様変わりしています。この15年でスマホやＳＮＳが登場し、商圏は日本全体または世界に広がりました。この大きな変化の元は人々が手にする「情報」の変化です。検索によって情報の取得は簡便になり、ＳＮＳによって個人同士が地域性関係なく情報を交換するようになったのです。一説には、30年前の人類より今の人類の方が、数百倍多くの情報を取得し取捨選択しているということです。私たちはこれまでない情報の大海原を航海しています。

歴史と実績のあるアジア協会アジア友の会として、より多くの人々にいかに「生命の水」への活動に関心をもってもらうか、人々とつながるために情報の取捨選択に選ばれるか、オンラインの広報・ＰＲ活動の発展はカギとなりそうです。

近年、社会起業・ソーシャルビジネスもよく聞くようになり、開発途上国の産業発展や雇用創出などを同時に解決する起業家育成が注目されています。ＳＤＧｓの観点からも当然の流れとしてあり若者の関心も非常に高い。

今後さらに深刻化するであろう世界の「水」問題に対し、アジアの起業家育成の可能性は大きいと感じています。自分が投資したアジアの起業家が頑張る姿を見たい、応援したい、そんな日本人は意外に多いのではないか。現状まだ「水」に特化した社会起業ファンドは見られない。「生命の水」をテーマにアジアの若者への支援ができ、そこに投資という形で人々が関わる新しい提案ができれば、もっと多くの日本人がアジアの支援に関心を寄せるのではないか、それを非営利団体がやってもいいのではないか、そんなことも想像しているとワクワクします。

今後さらにテクノロジーが進化した先に、国の概念を越えてオンラインで繋がる世界が訪れます。共感・価値観でつながる領土を持たない国のようなものです。そこに至る中でどのように当協会は航海をしていくのか、これからも考えていきたいと思います。

●プロフィール●

さとう・まさたか　１９８０年、岡山県生まれ。２００８年リタワークス株式会社を創業、ＩＴ・ＷＥＢ領域で病院・ＮＰＯの2分野で事業展開。２０１６年開始のＮＰＯ支援事業は、１千以上の組織にサービスを提供。コングラント株式会社の代表兼務、ＫＩＢＯＷ社会投資ファンドからインパクト投資を受ける。２０２０年、アジア協会アジア友の会理事就任。２０２１年度 第７回アジアユースサミット（ＡＹＳ）実行委員長。

ＪＡＦＳ会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちＪＡＦＳ会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命（いのち）の価値を高めます。

以上

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS 150
2022年夏

JAFS
since 1979
公益社団法人アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

●主な目次●

「巻頭言」情報の大海原を航海する時代　02
緊急特集：広がる ウクライナ支援の輪
瀬田敦子さんチャリティコンサート 04・05
ネパール揚水システム、村人の手に　06・07
2021年度コロナ募金報告　08・09
ブルーオーシャン作戦、一歩ずつ　10・11
中学寮改築・栄養士留学 支援のお願い　12・13
農地と森再生、フィリピンの村の取り組み　14
「JAFSプラザ」＝国内の活動　15〜17
竹中真さんチャリティコンサート30年／快晴チャリティゴルフに12人／講演会「パンツを脱いだ日から」／日銀支店長から聞く 他
第１回「水」写真コンテスト入賞作　18・19
「井戸ができた村」　20・21
2021年活動報告・2022年支援事業
水／貧困対策／環境／子ども／罹災者支援／国際交流／国内での普及啓発　22〜30
2022年度 社員総会報告　31
新入会員紹介・領収報告　32・33
「新・the 社会貢献」　34
「環境コラム」　35

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2022年3月現在、井戸建設（累計2211基）や植林（累計258万本)、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第１号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

ＪＡＦＳは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。ＪＡＦＳへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

緊急特集

広がるウクライナ支援の輪

ロシアの侵略で苦境に陥っているウクライナの人たちを支援しようと、ポーランドから一時帰国したピアニスト、瀬田敦子さんのチャリティコンサートが5月21日、兵庫県宝塚市の大林寺で開かれた。アジア協会アジア友の会（ＪＡＦＳ）と同会の自主活動グループ「ハルハロ」が主催し、１００人が参加。勇ましいウクライナ国歌やショパンのエチュード（練習曲）に聴き入った。瀬田さんはポーランドに逃れたウクライナ難民の様子をスライドで紹介。「幼い命を守るために息長く支援を続ける」と話した。瀬田さんはポーランドでも難民支援コンサートに取り組んでおり、支援の輪は広がっている。（ＪＡＦＳ副会長　法花 敏郎）

ウクライナの人々を支援するチャリティコンサートでピアノを演奏する瀬田敦子さん＝5月21日、兵庫県宝塚市

瀬田敦子さん チャリティ コンサート

「幼い命を守るため」

「ウクライナの栄光は滅びず　自由もしかり（中略）朝日に散る霧のごとく　敵は消え失せよう」。コンサートの冒頭、ウクライナ人ピアニストによるウクライナ国歌の演奏が映し出された。瀬田さんの最初の曲はポーランド生まれのショパンの「革命のエチュード」。ロシア帝国の支配に対する１８３０年のポーランドの反乱（11月蜂起）がロシア軍に鎮圧されたことに怒り、悲しんだショパンが思いを込めて作曲したといわれている。「今のロシアの野蛮な行為に私も腹が立ち、毎日のようにこの曲を弾いています」。力強い演奏が満席の会場に響いた。続いてベートーベンの「月光ソナタ」。ロシア軍の戦車に体当たりして亡くなったウクライナの青年と、去年病死した瀬田さんの弟をしのんだ。

子どもの絵に戦車・ミサイル

会場にはウクライナの子どもたちがクレヨンで描いた４枚の絵を展示した。瀬田さんが教会などでウクライナの難民に募金した際にもらったもので、戦車やミサイルが描かれている。

ロシアの侵略後、ウクライナから隣国ポーランドに逃れた人はピーク時で２９０万人。瀬田さんは演奏の合間に、腕をけがしたおばあさんと、おばあさんらをホテルに受け入れた日本人の女性経営者らをスライドで紹介。

「私は逃げずに祖国のために戦う」という高齢の画家がウクライナに残っていることも話した。

瀬田さんは大阪府池田市出身。音大を卒業後、武庫川女子大でピアノ講師に。そこで知り合った年下の同僚の抒情あふれる響きに圧倒された。「一緒に練習してほしい」と頼んでいた矢先の１９９５年1月、阪神大震災が起き、その同僚は自宅が倒壊して亡くなった。一時はショックでピアノを弾けなかったが、「亡き友のためにもがんばらねば」と翌年イタリアへ。その年、マスタープレイヤーズ国際音楽コンクールで優勝した。タイの大学で音楽を教えた後、4年前からポーランドに住み、ヨーロッパ各地で演奏活動を続けている。

阪神大震災の経験から「ピアノを通して世の中に役立てないか」と考えていた。２００１年1月、死者2万人が出たインド西部地震が発生。ＪＡＦＳが震災支援活動に取り組んでいることを知り、会員に。大阪、東京で初のチャリティコンサート（ＪＡＦＳ主催）を開いた。

以来、22年間、国内外でアジアの子どもたちの教育支援、東日本震災、タイの洪水、フィリピンの台風被災者支援などのチャリティコンサートを続けている。今、貧しいアジアの子ら3人の里親になっている。

瀬田さんのチャリティコンサートは開催地のＪＡＦＳ地区会が窓口になっているが、今回はフィリピンのストーリートチルドレン支援などをしている「ハルハロ」が担当した。今回寄せられたお金は入場料と当日会場に設けた募金箱分など合わせて計約47万円。経費を引いて、日本に避難しているウクライナの人たちの支援にあてる。

瀬田さんはＪＡＦＳで培ったチャリティコンサートのノウハウを生かし、ポーランドでもウクライナ難民支援のコンサートに取り組んでいる。今春、ポーランド南西部の音楽ホールやウクライナの難民を受け入れている全寮制の高校で開催。9月には多くの難民を受け入れているポーランド南部の古都、クラクフで開く予定だ。日本人の版画家、澤岡泰子さんの展覧会と合わせて開く。澤岡さんは木に絵をかいて彫る版画技法（木のリトグラフ）を世界各国で紹介。60点の作品を近くポーランド国立美術館に寄贈する。現地のライオンズクラブの協力で作品数点をオークションで販売し、ウクライナ難民の支援金にあてる、という。

阪神大震災時への礼を込め

ポーランドは欧州有数の親日国だ。19世紀、ロシア帝国の支配下にあったポーランドで独立を勝ち取るための民衆蜂起が起きたが、ロシア軍に制圧され、多くのポーランド人が政治犯としてシベリアに送られた。その後の第1次世界大戦で激しい戦場となったポーランドから逃れる人も加わり、シベリアには当時15万から20万のポーランド人がいた、といわれる。第1次大戦後、ポーランドは独立を回復したが、大戦末期に起きたロシア革命でシベリアからの帰国が困難になり、病死、餓死が続出した。

当時、日本は7万人をシベリアに出兵していた。「せめて親を失った孤児だけでも救ってほしい」。ポーランド側の要請を日本の外務省が受け入れ、陸軍も合意。日本赤十字社が動いて７６５人の孤児が船で日本に来た。病気や栄養失調の子も多かったが、日本の手厚いもてなしで元気になって祖国に帰ることができた。

ポーランド政府はこの返礼として１９９５年と翌96年、阪神大震災の孤児らをポーランドに招待。第1次大戦生き残りのポーランド人の元孤児4人が対面して子どもたちを励ました。瀬田さんのコンサート、澤岡さんの版画販売はこの日本人被災孤児支援に対するお礼の意味も込めて実施するという。

コロナ禍でアジアの子ども教育支援コンサートが減ったため、瀬田さんはポーランドの自宅のピアノ教室から解説付きで短い演奏動画を配信する「オンラインサロン」を始めることにした。会費は月３００円。会員は月2回の動画配信が受けられ、月1回のＺＯＯＭ交流会に参加できる。音楽家との交流、ピアノのオンラインプライベートレッスンも計画している。サロンの収益は経費を引いてアジアの子ども教育支援にあてられる。申し込み、問い合わせは右のＱＲコードか瀬田さんのメールアドレス（atsuko.pianist@gmail.com）へ。

※参考文献「和楽Web　２０２０年5月21日号　１００年前のシベリアからの救出劇（辻明人）」

難民支援募金を受け付けます

詳しくはＪＡＦＳ事務局へ
☎06・6444・0587

揚水システム、村人の手に

ネパールでの建設工事完了

揚水システム譲渡式。JAFSとAFSネパールが村人に譲渡内容を説明した＝ネパール、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村

外務省の日本NGO連携無償資金協力を得て、ネパールのシンドゥパルチョーク郡インドラワティ村10地区に、JAFSとAFSネパール、現地行政や住民が連携して建設していた揚水システムが完成し、3月18日、管理・運営を引き継ぐ現地の水委員会管理組合に譲渡されました。現地から要請を受けて構想と準備を始めて5年半。NGOが協力するインフラ整備ではあまり見ることができない、総費用1億5千万円余の大工事でした。今後は1千世帯に生活用水を、最終的に1世帯当たり1日270リットル（1人当たり45リットル）を常時供給できることを目指します。（JAFSスタッフ・本事業JAFS側担当者　熱田典子、JAFSスタッフ・最終期間現地駐在員　坂口優）

「大切に使おう」入念に研修

建設事業終了後は、住民が主体となって設備を長期維持します。そのために結成された水管理組合の人たちに、水インフラ管理研修を3回しました。

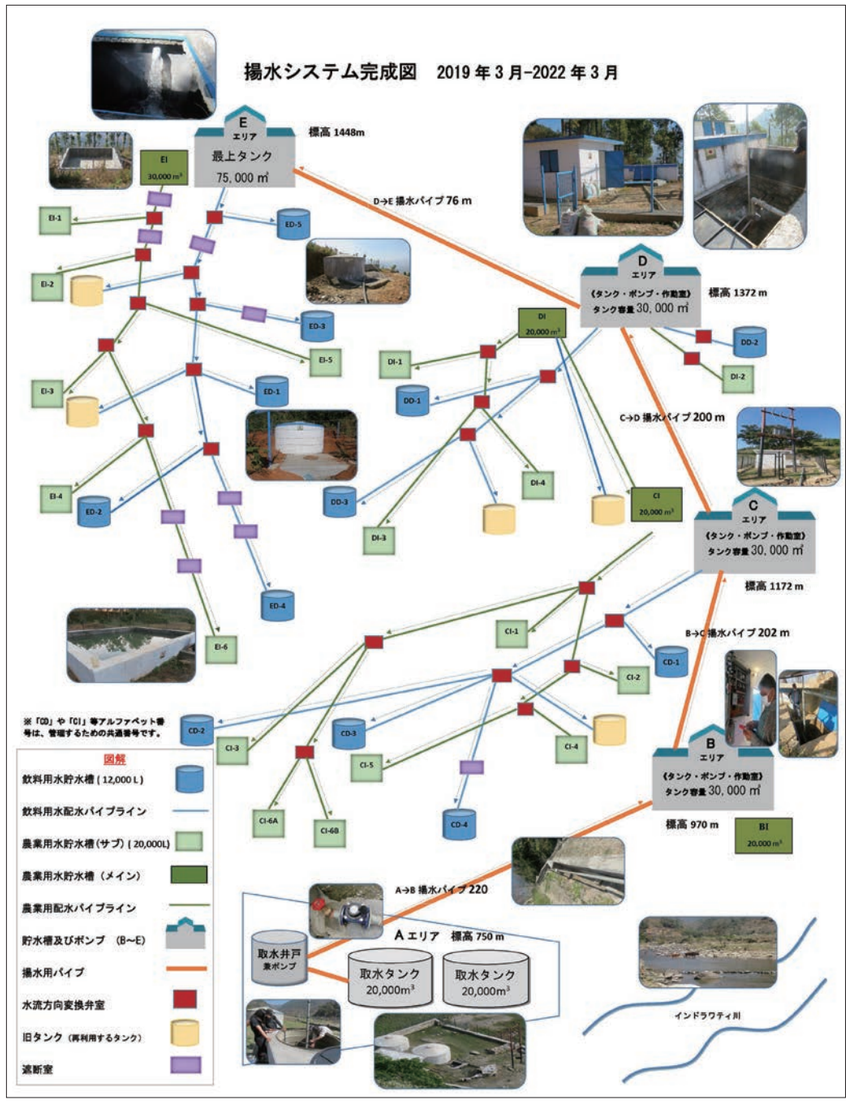
1回目は、組合から選出されたメンバーと集落ごとの水管理グループの18名を対象に、①水衛生、②システム運営維持に必要な技術や管理ルール、について3日間行い、各人の役割と責任を明確にし、長期運営する上で生じる問題とその対処法、水使用料金と経理に関するガイドラインを学びました。

2回目は、水管理組合の14人が1日で不具合に対応できるよう、ポンプと電気操作盤の機能や仕組みを理解し、安全な利用法を学ぶ研修。3回目は、水管理組合の18人が3日間、持続可能な配水を主なテーマに、①プロジェクト運営計画の作成、②水質汚染時のタンク水の浄化方法、③持続可能な財政運営、④メンテナンスの重要性、を学びました。

講義だけでなく、電気操作盤の使用や管理方法の実習もしました。また、似た事業をしている他地域を視察し、自分たちの地域にどのように取り入れられるかを検討しました。

水管理組合が主体となって何度も会議をしました。地域住民にとって何が負担になるのかや課題点をあげ、エンジニアや日本人専門家のアドバイスを参考にして、地域に合った運営管理体制や使用料金を策定しました。今後は各委員会や代表者、行政が役割を分担し、住民、特に水管理組合が主体となって運営管理や修繕などをします。

事業期間中、日本人専門家がオンライン研修と現地視察をしました。システムは完成後30年以上この地域で使えるものとして譲渡するため、重要な内容です。システムを一つ一つ確認し、どこに不備があるのか、日本であればどのように対処するかを教えました。



揚水システムの完成図。取水井戸から700mの高所に水をくみ上げ、４カ所の中継タンクと送水ポンプ、計4582mのパイプで、最大75,000リットルのタンクに揚水。総計29,758mのパイプにより、12集落の飲料水タンク、21エリアの農業用水タンクに水を満たす

現地視察では、オンライン研修で再修復の必要性が認められた項目や場所を入念に確認しました。より持続可能に運営できるように、アドバイスしながら、課題点や問題点に対応しました。

また、日本での事例を紹介し、現地でまねできる部分は導入するよう、水管理組合が主体となって話し合いました。定期点検や管理は、日本で用いられている点検表を参考に、現地に合ったものを現地スタッフが作り、水管理組合に投げかけ、調整するなどしています。

このシステムを長期運用するために一番重要なことは、現地の人たちが愛し、みんなで守るという気持ちで使うことです。そのために、パイプを敷設するときも、住民が参加することを条件にしました。今後の定期的な清掃も、住民参加でします。そして地元行政と継続的で密に連携しサポート体制を築いてもらいます。

次は全世帯に水場作り

JAFSのこれからの役割は、各戸で水が使える水場の設置に協力することです。本事業の実施中にネパール政府が「1世帯1水道（水場）」の方針を打ち出しました。本事業は開始前に政府と契約を交わして実施した事業のため、その方針に沿って仕上げることが必要になります。そのため集落の世帯数に合わせて水場を設置する予定であった計画を変更し、1戸1水場を全世帯に、今年から来年までに建設します。費用の半分（1戸3万円）をJAFSが担います。

ネパールの井戸1基の金額は17万円ですが、1基分のご支援を頂きますと6世帯へ水場を設置できます。ご協力をお願いします。

コロナ募金へのご支援に感謝します

2021年度報告

JAFSはコロナウイルス感染症が広がった2020年５月にコロナ募金を始めました。この２年間に1338件18,701,493円、うち２年目の2021年度は502件8,346,675円が集まりました（いずれも夏季・冬季募金含まず）。これによって計15地域･約53万人の方々を支援できました。また、企業連携により５万枚のマスクを配布できました。ご協力に深く感謝申し上げます。

2021年度には、重症化率の高いデルタ株がまん延しました。主な感染地となったインドとその隣国ネパールなどから、ＳＯＳの訴えが連日届きました。「貧しい人たちが職を失い、食料を買えない人が続出している」「スラムで幼な子の泣き声が絶えない。栄養不足が心配」「医療が崩壊し、人がどんどん亡くなっている」……。

そのたびに、現地の提携団体と協力して食料を届け、衛生用品を配りました。また、医療機関に搬送できない人々が続出したインドのアムラワティ県には、40カ村がすぐ利用できる救急車１台を贈りました。現在は地域の「命の足」となってしっかり活躍しています。JAFSが同年度にした主な支援活動は**下の表**の通りです。

現地の提携団体は、目の前にいる困っている人を支援して救うことはもちろんですが、その次を考え、地域の人同士で自分たちの地域社会を守っていくことを念頭に置き、各地域のリーダーと活動することを大切にしています。そのために、新しいつながりをつくったり、これまでの古い慣習を変えたりして、地域の新しい仕組みを生み出しました。

現在、コロナ感染者数は、全体的に小康状態になり、各国とも徐々に以前に近い生活が戻りつつあります。しかし、日本と同様、コロナによる影響が各地で残っています。特に、貧しい人たちは、これまでに蓄えたお金も物も、ほとんど使い果たしています。その人たちが生活を立て直し、持続可能な地域づくり、教育環境づくりをできるように支援することが、今度のJAFSの役割であると考えています。

コロナウイルス感染症対策　2021年度の支援内容

対象地域		提携団体	支援内容
インド	ガッチロリ	RUDYA	食料支援(400世帯)、衛生啓発活動(3842人)、学校の運営支援(92人)
		SPRASH-AFS Gadchiroli	食料支援(400世帯)、感染予防対策品支援(300世帯)、ボランティア支援(20人)、ファイナンシャルサポート(32世帯)、メンタルヘルスケア(20人)
	アムラワティ	HDSI	救急車１台
	サーングリー	AFS-Sangli	食料支援(100人)、感染予防対策品支援(５千人)
	プーネ	PUNE CHAPTER (BARAMATI)	食料支援(子ども100人)
	ナグプール	AFS-LONARA	オキシメーター100個(100世帯)、酸素濃縮器３個、コロナ治療キット(消毒液、マスク、ビタミンサプリなど)、衛生啓発活動(パンフレットなど配布)(150世帯×4カ月)、食料支援(150世帯×4カ月)
		AFS-Nagpur	食料支援、感染予防対策品支援(60世帯/1カ月×4カ月)　*募金と別に ㈱良品計画よりマスク５千セット
	アコラ	Akola Chapter	500人を対象に、衛生啓発活動、感染予防用品配布
	ムンバイ	AFS Mumbai & Thane Chapter	604世帯を対象に、感染予防品(マスク、アルコール消毒等)配布、食料支援、衛生啓発活動
	ディンディガル ナマカル	SSH	300世帯に、食料支援、衛生用品配布
	ビジャプール	AFS-Bijapur	200世帯に、食料支援、衛生用品配布
		BSVIA	学校の運営支援(74人)　*募金と別に ㈱良品計画よりマスク５万セット
		AFS-Ukkali	消毒液2500本、マスク５千枚
		AFS-Chandur Bazar	食料支援(260世帯)
ネパール カトマンズ・ナワルパラシィ		AFS-Nepal	食料配布(農村地域150世帯、カトマンズの生活困窮者500世帯)、衛生用品配布(学校4校･600人)
フィリピン		KALIPI	地域見守り支援、物資配布　*募金と別に 京セラ労働組合より学用品支援
カンボジア		KAFS	地域見守り支援、衛生用品の配布
スリランカ		SARVODAYA	地域見守り支援、物資配布
タイ		TAFS	コロナ情報を手話でビデオ発信

ピカピカの学用品で新学年

フィリピン、KALIPI財団代表
エロイサ・クナナン

コロナ禍のフィリピンでは農村地域もオンライン授業が始まりましたが、貧しくてネット環境がない子どもたちは利用できません。１週間ずつ宿題に回答して提出し、勉強を続けています。収入が減る中、親は必死に働いていますが、食料が優先され必要な学用品も買ってやれません。学べない悲しさ、理解できない勉強、友達に会えない寂しさから、教育環境は悪くなる一方でした。この状況を知った京セラ労働組合の皆さんから学用品の支援を受け、ルソン島ヌエバエシハ州の２つの村の子たちに贈ることができました。

シティオパントック村　26名

田んぼに囲まれた小さな村です。村々の話を聞く中で、この村の子どもたちが支援を最も必要としていました。学用品を贈られるのは初めての経験であり、頂いた文具を使って勉強できることをとても楽しみにしています。

サンフェルナンドスール村　73名

子どもが多い村で、文具をどう配るか相談した時、年長の子が「これから勉強を始める小さな子を優先してあげて」と言ってくれました。文具は丈夫で、大切に長く使えるととても喜んでいました＝写真。家族にお披露目した後に、兄弟と一緒に仲良く使っている姿に心温まりました。様々な制限の中で皆が多くの不安を抱えていますが、久しぶりに明るい気持ちになり、勉強することに前向きになれました。

◇

寄贈者／京セラ労働組合

井戸を寄贈した村を訪問できない中で何とか交流したいと思っていた時、文房具寄贈の提案を受けました。寄贈できるだけ集まるか不安でしたが、組合員から予想外に多くいただき、フィリピンの子どもたちのために役立ちたい思いそのものだと、本当に嬉しく思いました。村人との交流が再開できるまで、明るく前向きな気持ちで日々頑張って欲しいです。日本から、皆さんが笑顔になれる活動を、これからも続けたいと思います。

寄贈救急車、へき地の村で活躍

インド、HDSI代表
プロモッド・ソラット

２０２１年８月６日、インド・マハラシュトラ州アムラワティ県で活動する提携団体ＨＤＳＩに、ＪＡＦＳの支援により、救急車が寄贈されました。年中無休で稼働し、特にへき地に住む人々の緊急時に活用されています。

利用者の多くは、アチャルプール、チクホールダラ、アンジャンガオンスルジ地域の人々です。アムラワティにある専門病院やかかりつけ医がいる病院へ患者を搬送。現在はパラトワダからボパール（マディヤプラデシュ州）、パラトワダからナグプール、パラトワダからチャンドラプルなど、長距離移動が必要な患者も搬送しています。50以上の村のほとんどの村が丘陵地帯にあって道路事情が非常に悪いのですが、これまで救急車を利用する機会がなかった村人にとって重要な役割を果たしています。

実際に利用した人の声です。

スバシュ・ババンカルさん　発作に襲われて左半身が完全にまひし、意識もありませんでした。地元の医師が設備が整った別の病院を紹介してくれ、友人や家族は救急車を探しましたが、見つかりませんでした。そのときＨＤＳＩが持っている救急車の存在を知りました。すぐ連絡を取り、私はアーウィン病院アムラワティに運ばれ、治療を受けることができました。少しでも遅ければ、命にかかわっていたと思います。感謝しています。

ラフル・チョーパガールさん　母は昏睡状態でした。医師はアムラワティの専門病院へ移動させることを提案しました。救急車がなくて困っていたとき、ＨＤＳＩが保有する、酸素供給装置を備えた救急車を手配でき、瞬時に搬送できました。残念ながら、母は翌日息を引き取りましたが、対応が遅ければ、母はとっくに亡くなっていたと思います。

ブルーオーシャン作戦　サステナブルに一歩ずつ

昨年11月に日本とアジアの3カ国5地域で始めた「ブルーオーシャン作戦」。海でつながる国々で共に、海岸のプラスチックごみを拾い、地域の生活環境改善や生態系保全に取り組んでいます。その後のフィリピンとインドネシア、日本での活動を紹介します。海洋へのプラスチック流出量は、アジアの国々が上位に多く入り、生活環境も衛生的と言えない状態になっています。背景に貧困問題もあります。そんな中で自ら立ち上がったアジアの人々を、ぜひ応援してください。

プラスチックごみが水路に捨てられ、流れ着いてマングローブの根元にたまる＝フィリピン、ソルソゴン州マトノッグ

津波を防いでくれることを祈って、マングローブを植林＝2021年11月28日、インドネシア、アチェ州バンダ・アチェ

分別ごみ箱設置し再活用　フィリピン

AFSソルソゴン代表　ジーナ・ヤップ

フィリピンのソルソゴン州マトノッグ町は、ルソン島南端の海辺にあります。川や海の近くは車が通行できる道路が少なく、また町役場は台風などの災害対応に追われて手が回らないため、ごみ収集はあまり行われておらず月1回程度です。

このため、なす術（すべ）ない住民たちは、ごみは川や海に捨てれば流れ去ると考え、仕方なく水辺に捨ててしまいます。陸のごみも水路や川に落ちて海に流れ出ます。生ごみは腐敗し、水質を悪化させます。ごみのある生活環境は衛生的とは言えず、水系生態系にも影響して水産物が減ってしまいます。

そこで、発生源からごみを減らす活動を4月から始めました。啓発活動と併せ、有価なプラスチックごみを分別するごみ箱を設置してそこに捨てる習慣を養い、ペットボトルなどのリサイクルに取り組みます。

生ごみは堆肥にして緑化や農業を推進し、水環境を改善することを目指します。住民が野菜くずや果物の皮などの台所ごみを持ち寄り、引き換えに堆肥や苗、植物の栽培情報などを持ち帰り、実習を受けることのできる堆肥化グリーンセンターの建設を始めました。有機性ごみが循環でき、また植物栽培は多くの家庭に好まれます。堆肥化に参加する家庭を募ったところ、5月初旬までに50家庭が集まりました。

まだ始めたばかりのプロジェクトで、住民の意識を変えていくことに大変な面もありますが、1年後には良い報告ができるよう取り組みます。

浜に植林　カメの子放流　インドネシア

AFSアチェ代表　シャフウィナ

インドネシア、アチェ州バンダ・アチェ（スマトラ島）では、海洋生態系を守る活動をしています。2004年のスマトラ島沖地震で受けた津波被害を教訓にした防災活動と深く関わっています。

昨年11月28日に沿岸河口部でマングローブ3千本を植林しました。木々が森になれば津波を防ぐ防波堤の役割が期待され、生態系も豊かになります。

今年2月25日には、ランプークビーチで、90匹の赤ちゃん海ガメを海に放流しました。オサガメがビーチに来て産んだ卵を、保護グループが孵化（ふか）させたものです。数年前から恒例の活動で、地域の子どもたちを招待して行っています。放流前にプラスチックごみ拾いもしました。約25年後に、成年したカメがビーチに戻ってくることを願っています。

3月15日には、アチェ防災庁主催のワークショップ「生態系に基づく防災活動」で基調講演者を任され、私たちの活動について話しました。テーマは「アチェの沿岸災害の防止と軽減のための海洋生態系の保全と、コミュニティの役割」。海洋生態系を守る私たちの活動が役立つと良いと思います。

しかし、気になったのは、会議で出された水のボトルとコップがプラスチックだったこと。次回は参加者がマイボトルを持参するようにと主催者に呼びかけます。

プラごみゼロ

浜辺の砂を掘り返して丹念にごみを集めた。円内は、ごみの中から選り分けたプラスチックの小片＝4月16日、大阪府貝塚市、二色の浜

「生き物救おう」プラ干狩り　日本

4月16日、国内16都道府県の海辺で計230人余りがプラスチックごみを拾い、オンライン交流しました。

大阪府貝塚市の二色の浜では、子どもからシニアまで125人が、砂に埋もれた小さなプラスチック片を、ザルやスコップで掘り出しました。潮干狩りならぬプラ干狩りです。最後は指で一つ一つまんで拾う地道な作業。約2時間で375gのプラごみ片を集めました。ペットボトルなど大きなごみは、ごみ袋6つ分を拾いました。

浜一面に広がった参加者が、やがてライン状に収束してきました。海面が最も上がった満潮時の波打ち際に漂着物が置き去られます。ここに、元が何か分からないほど小さなプラごみがたくさん。海に流れ出て砕け、漂い、海底に沈み、生き物が食べたかもしれない小さなプラごみが、浜に打ち上げられ、私たちに拾われたのです。いったん環境中に出たプラごみ片を集めるのがどんなに大変か実感し、ごみを出さない心がけが大切だと思いました。

東京都大田区の城南島海浜公園つばさ浜では44名で307g。全国を合わせても約1kgで、日本で年間1人が使うペットボトル約200本分（約4kg）の4分の1。しかし、1人当たり100個以上拾ったと思うので、全国で2万個以上になります。ということは、小さなプラごみを海の生き物たちが食べてしまう機会を2万回以上減らすことに、私たちは貢献できました。

今回の参加費収入は実費を差し引き、アジアでのごみ問題改善活動の支援に使わせていただきます。

（JAFSスタッフ　川本 裕子）

◇国内でのプラスチックごみ拾いは、次の各社・各団体にご協力いただきました。共催：「ステハジ」プロジェクト／後援：大阪府、㈱OSGコーポレーション、㈱ウォーターネット／協力：象印マホービン㈱、タイガー魔法瓶㈱、ピーコック魔法瓶工業㈱、㈱DESIGN WORKS ANCIENT、㈱アカカベ、㈱Fast Fitness Japan

皆さまのご支援　募っています！

老朽化した学生寮と、そこで暮らす中学生たち＝ラオス、ポンサーリー県

ラオスの中学生に新しい寮を　目標100万円

ラオスの最北部、ポンサーリー県ブンヌア郡の農村地域にあるナンフェ中学校の学生寮再建に向け、クラウドファンディングを7月20日まで募っています。この学生寮を1棟再建するのに必要な金額は273万円。第1期の目標金額は100万円です。しかし、6月21日現在、まだ25万1000円しか集まっていません。まだまだ皆さまからのご支援が必要な状況となっています。どうか、ご協力をお願いいたします。

現在の学生寮には生徒35人が住んでいます。学校から4～10km離れた村に家があり、途中の道路も舗装されていないので、季節によっては通学することができないためです。寮は地域の保護者たちが協力し合って建設しましたが、恒久的な建物ではなく仮設寮であり、上の写真のように老朽化が進み、毎年修繕が必要な状況になっています。このため、生徒たちの学校生活や学習環境に大きな影響が出ています。

寮に住む35人の生徒が継続して教育を受けられるように、そして安心で安全な学校生活を送れるよう、学生寮2棟を建設します。うち1棟を当会が支援し、そこには2部屋と2つのトイレが備えられます。子どもたちが教育や進学を諦めざるを得ない状況にならないよう、皆さまのあたたかいご支援・ご協力をお寄せ下さい。

（JAFSスタッフ　坂口 優）

クラウドファンディングのお願い

https://congrant.com/project/fund/4550

◀▲　クラウドファンディングは上のURLリンクまたは左のQRコードからご参加いただけます

日本語を学ぶ京都の学校の前で

ネパールの農村 食から健康づくり

学ぶ2人のサポーターに

健康に生きるために必要な栄養指導が届いていないネパール農村部の人々の今の状況を自分たちの手で改善したいと、同国の女性2人が4月に来日しました。まずは日本語を習得して日本の栄養士課程で学び、栄養士の資格を得ることを目指します。JAFSでは、彼女たちが学びと活動を実現できるよう、サポーターを募っています（一口1万2000円）。ご協力いただける方は、JAFSまでお問い合わせください。

レジマ・タパ・マガールさん＝写真右＝とルビー・バッタライさん＝同左。

食料が十分には生産されていないネパールの農村部では、一人一人が健康づくりのための栄養知識を持ち、子どもたちが健康に成長することが、持続的な地域づくりにつながります。都市部では徐々に、食からの健康づくりのため栄養指導が広がりつつありますが、国が発展していくためには、インフラの整備だけなく、誰もが健康に暮らせるように、一人一人が栄養知識や栄養指導を得ることにより日々の食を整えることが必要です。

日本で得たこと実行したい

2人は、留学をめざしたきっかけや抱負を、次のように話しています。

レジマ・タパ・マガール　3月までネパールで、JAFSネパール事務所のスタッフでした。農村地域での活動の中で気づいたことは、子どもの栄養失調の多さとともに、大人の栄養障害による肥満が多発していることです。その原因は、食事内容に関する知識がないに等しい状況だからです。それで私は、栄養分野でも活動したいという強い意志を持ちました。

日本で学び帰国した後は、栄養分野の人材育成に貢献し、健康的なライフスタイルのために、栄養の重要性と、知識や意識を教え伝える活動をしたい。そのために栄養士資格を取得するとともに、生涯の知識となる日本語能力を身につけ、日本語を使いこなせるようになります。

ルビー・バッタライ　私はネパールで栄養学の修士号を既に得ています。その学びの中で、人々の栄養状態を改善する必要性を強く感じました。しかし今日のネパールでは、へき地での栄養教育が十分に行われておらず、加えて栄養状態や人々の健康を改善するための十分なシステムがありません。

日本は、平均寿命が世界トップ5の国の一つです。食生活と食科学の発展が関係していることは間違いないと思います。日本の栄養士資格を取得するための学習内容を実際に学び体験することで、これまで以上の理論的知識を得られるでしょう。それを私の国で応用して実行したいと思っています。

（JAFSスタッフ　熱田 典子）

※この事業は、京都西南ロータリークラブと共同でしています。34ページに同ロータリークラブの紹介記事。

「自然とともに生きよう」農地と森再生

AFSソルソゴン代表
ジーナ・ヤップ

フィリピン、トゥガス村での取り組み

フィリピンの農村では、ほとんど人が小作人として働くか、狭い土地で作物を育て、わずかな収穫物を市場で売って暮らしています。一時期、収穫を増やすために木々を伐採し、安い農薬や化学肥料を使って同じ土地に同じ作物を繰り返し栽培しました。その結果、土が汚染・劣化したため収穫が減り、貧しい人はより貧しくなる悪循環に陥ってしまいました。さらにコロナ感染が深刻になって物価が高騰し、村から村への移動が厳しく制限されました。農業に携わる人々から相談を受け、人々が自然とともに生きていける農地と森を再生させるプロジェクトに取り組むことにしました。

フィリピン、ソルソゴン州マトノッグのトゥガス村は、町から遠く離れ、公共交通機関のない山に近い、閉ざされた土地です。今まで森から無料で得られる収穫で暮らしていた人々は、最初はプロジェクトに懐疑的でした。しかし話し合いを重ね、すでに有機肥料作りを始めていた現地の女性グループや持続可能な農業を目指す若者たちが少しずつ活動に参加する中で、徐々に好意的に受け取るようになりました。

日本からの支援を受け、まずは2ヘクタールの土地を再生するため、ココナッツ、バナナ、サトイモ、カラマンシー、キャッサバ、パイナップルの間作法を始めました。雨水や湧き水をためるタンクを設置し、苗木をつくり、有機肥料で土壌を改良し、植え付けました。

育った植え付け前の苗木を見る、農業プロジェクト中心メンバーのソニアさん＝フィリピン、ソルソゴン州トゥガス村

今までは自然に育った果樹から収穫するだけでしたが、伸びすぎた枝を切り、絡まったツタを除いたりすることで、長い期間、多くの果物を収穫できるようになりました。切った枝は薪（まき）や木炭に、落ち葉は肥料に、大きな古い木は材木として使えます。

多くの種類の作物を育てることで、村人の食物に対する意識を高め、子どもの栄養改善にもつながっていきます。有機肥料で育てられた安全な食物や安全な飼料で育った家畜は、都会の健康志向の人々から高い関心が寄せられ、今までより高い価格での販売が期待されます。

今は、農業用水とタンパク質食料を確保するための養殖池を建設中で、多様な植物の育て方を学べる研修農場作りにも取りかかっています。トゥガス小学校では、生徒たちに食物の栽培を教える場としてこの農場を利用しており、地域社会とのつながりも強まってきました。

安定した生産量の確保や作物の販路開拓など、まだ課題は山積みですが、森の生態系を守りながら、これからの世代が自身の手で生計が立てられる農業を村でできるように、研修も含めた5年間の活動を計画しています。日本の農業や里山保全の取り組みも、とても勉強になります。農村の貧困の根本的な問題解決に向けて、引き続きご支援ください。

国内外のさまざまなイベントをＨＰに載せています。記事についてのお問い合わせはＪＡＦＳへ＝裏表紙にアドレス、連絡先

チャリティコンサート重ね30年 震災からの復興やアジアを支援

ジャズピアニスト・竹中 真さん

㊤曲の背景についての解説も参加者の楽しみ＝6月18日、洛南教会　㊦演奏中の竹中真さん

京都地区会では「第5回竹中真（たけなかまこと）・京都チャリティピアノコンサート」を6月18日、京都の洛南教会で開催しました。コロナの影響も心配しましたが、49名が集まり、戦争・平和・夏をテーマにしたジャズに酔いしれました。後半は会場からのリクエスト曲が演奏され、盛り上がりました。皆さんからいただいた協力金は、インドとフィリピンの子ども教育支援に充てられます。

竹中真さんは、ＪＡＦＳのチャリティコンサートで30年来、ピアノを演奏してくださっています。これまでの活動を振り返り、ＪＡＦＳや社会奉仕活動への思いを語ってくれました。

「１９７０年代のほとんどを東京で過ごしました。大学・大学院に行きながら大学助手、高校教師、漫画家、シナリオライター、俳優、ピアニスト…といろんな仕事を楽しくやっていたんですが、70年代も終わりの方になって、なんでも屋さんになってはいけない、何か専門を持ってトコトンやらなきゃ人生意味がないと悩み、選んだのが音楽でした」

「ボストンのバークリー音楽大学に留学しました。私はアメリカ生まれで米国籍を有していましたが、日本に住んでいた留学前のベトナム戦争中、二重国籍から日本を選んで戦争に行きませんでした。これに端を発して10年以上日本に帰れなくなりましたが、7年の裁判の後、永住権を獲得。そして日本の母校で教鞭（きょうべん）を執ることになって12年ぶりに帰国。京都での凱旋（がいせん）コンサートの2日前に依頼されたのが、大阪女学院でのＪＡＦＳチャリティコンサートでした。ちょうど30年前の話です」

「以来、帰国するたびにＪＡＦＳに本当にお世話になりました。大阪・京都・神戸・和歌山などの関西地区はもちろん、東日本大震災後の東北コンサート、熊本地震後の復興コンサート、ネパール地震の復興コンサート、その他フィリピン、インドネシア、タイ、中国などにも関われたこと、直接的にも間接的にもＪＡＦＳに感謝です。これからもよろしくお願いします」

（ＪＡＦＳ会員　辻賢二）

快晴チャリティゴルフに12人

4月11日、JAFSアジアフレンドシップ国際基金に協力するチャリティゴルフコンペを、大阪府富田林市の聖丘カントリークラブで開きました。快晴で、八重桜が満開目前。JAFS会員と、私の所属する八尾ライオンズクラブからの6名（うち私ら2名はJAFS会員）を合わせ計12名が参加。4組に分かれ、和気あいあいとゴルフを楽しみました＝写真。

この基金は、アジアの仲間とのネットワーク事業の強化、人財育成、アジア国際ネットワークセミナーの実施協力などの資金の母体です。様々な催しを計画しており、ゴルフもそのひとつ。国内では参加者がプレー費と別に一人5千円を基金に寄託します。昨年暮れに堺市の泉ヶ丘カントリークラブで初回を開き、今回が2回目でした。

ゴルフ後は表彰式。ダブルペリア方式（初心者でも上級者でも平等に上位入賞できるハンディキャップ算出方式）で、運よく私が優勝できました。JAFSの村上事務局長も駆けつけ、参加者全員に感謝状が贈られました。今回基金に寄せられたお金は、不参加の1人からの分も含めて6万5千円。アジアの仲間とのネットワーク強化に役立てられます。

次は8月1日、堺市の泉ヶ丘カントリークラブで催す予定です。5組先着20名、雨天中止。参加申込み、問合わせは、JAFS事務局の岡本まで。皆さまの参加をお待ちしています。

（JAFS理事　西田貞之）

講演会「パンツを脱いだ日から」

バングラデシュ出身の日本人、マホムッド・ジャケルさんの著書「パンツを脱いだあの日から・日本という国で生きる―日本社会の一員となったバングラデシュ人の物語」。この出版記念講演会が、5月21日、大阪国際交流センターにて開催されました。参加者は約150名でした。

本講演会は、当会会員で多くのバングラデシュ人留学生のお世話をされているジャケルさんを支える多くの仲間たちの力で実現しました。その一人、西亀真（にしかめまこと）さんからの報告です。

◇

私はマホムッド・ジャケルさんの本作りのお手伝いをした、盲人の西亀真です。

今回の講演会で「自分の身に禍や困難が降りかかってきた時に、どう考え、どう受け止めるかが大事だ」と学ばせてもらいました。

その一例が、本のタイトルにもなった『パンツを脱いだあの日から…』の銭湯での話です。どうしても最後のパンツが脱げないジャケルさんが番台のおばさんに注意され、悩んだ末「自分の文化とプライドを捨てないと新しいことが入れられない」と、泣きながらも思い切ってパンツを脱ぎました。講演では、その時の悲しみの独り言をベンガル語の涙声で聞かせてくれました。また初めての居酒屋のアルバイトで、店長から罵倒され、侮辱され、その悲しみと怒りを抑えきれなくなり、その時に歌った祖国の一番悲しい歌を歌ってくれました。

祖国を思い、悲しみに押しつぶされそうなジャケルさんの心が込められた歌に、自然と涙が頬をつたいました。

昔聞いた「優しい人の心には、痛みに耐えた傷がある」の言葉が思い出されました。優しさあふれるジャケルさん、素晴しい講演会をありがとう。

（盲目のセラピスト・幸せの入り口屋　西亀 真）

日銀支店長から聞く金融経済動向

5月20日、日本銀行理事大阪支店長・高口博英氏をお迎えして、JAFS法人賛助会主催の卓話並びに懇親会が、ホテルアウィーナ大阪で開催されました。

高口支店長からは、現在の金融経済動向を世界経済・日本経済・関西経済の三つの視点から分析・解説の上、中長期的な課題として、世界的な潮流であるデジタル化・脱炭素化への迅速かつ果断な取り組みの必要性と、2025年大阪・関西万博で期待されるテーマ・分野へのご教示がありました。

さらに、短期的には、ウクライナ情勢・新型コロナウイルス・世界的な物価上昇が、中長期的には、日本の物価と賃金の動向、デジタル化・脱炭素化、サプライチェーンの分断リスクといった事案が、今後の注目点となるとのご説明がありました。

卓話終了後には、高口支店長を交えて、和やかに懇親会が開催され、参加者は、有意義な時間を共有することができました。

（JAFS会員　岡田 一）

＊本書籍は、ごま書房新社発行。定価1430円。大手書店およびJAFSにて販売。

＊講演会の参加費の一部は、困窮するバングラデシュ人留学生の支援に充てられます。

バリアフリーな仲間づくりの場

JAFSなにわ南地区会の新たな拠点となる「ノアノアカフェ」（大阪市平野区）のオープンを記念した講演会とパーティを、5月28日土曜日に開催しました。当日は会員はじめ近隣の方々、バングラデシュからの留学生、近くの小学生を含め約100名の皆さんに参加いただきました。

盲目のセラピスト西亀真（にしかめまこと）さんによる、生きる勇気に満ちた記念講演＝写真＝を皮切りに、バングラデシュ人ジャケルさんの日本でのユニークな体験談をはじめ、晴天の下でのアトラクションで歌と踊り、日本殺陣道協会による忍者寸劇を楽しみました。

ランチ（ノアノアカフェ特製牛すじカレー）の後はカフェ内の3カ所に分かれて、西亀さんのワークショップ、屋外での紙飛行機大会、チャンバラ体験などを満喫いただき無事終了しました。

「ノアノアカフェ」は、障がい者福祉サービス事業を基盤とするノアノアグループが運営管理を行う新しい交流の場で、障がいを持つ方々との共存を願われています。

これから、なにわ南地区会は、地区の枠を越えて多くの方々に参加いただき、JAFSの魅力を伝え、楽しい仲間づくりができる活動を進めて参ります。

（JAFSなにわ南地区会 会長　中西 豊次・出口 貴之）

最優秀賞にレシナさん（ネパール）

第１回 JAFS「水」写真コンテスト

最優秀賞 To every drop water, there is a story of life - 水滴の数だけ、命の物語がある（レシナ・バジュラチャリヤ、ネパール）

小さな幸せの物語

最優秀賞の
レシナ・バジュラチャリヤさん

写真の裏側にはいつも小さな物語があると思っています。この写真の裏側にも、幸せの物語があります。ネパールで水プロジェクトが完了し、各家庭に「水」が行き渡るようになった幸せ。以前は、家事のために何kmも歩いて水をくみに行っていましたが、今では各家庭で水が手に入るようになりました。人々は幸せに満ちあふれ、この写真の女の子はいつでも自由に顔を洗うことができます。それは彼女にとって大きな変化です。

最優秀作品に選ばれたと知り、私の心は喜びでいっぱいになりました。多くの人の幸せと喜びの思いをこの写真に込め、みなさんと共有できてとてもうれしいです。

佳作 They don't need gym to be fit - 健康のためのジムはここでは必要ない（レシナ・バジュラチャリヤ、ネパール）

佳作 水と灯（齊藤 誠）

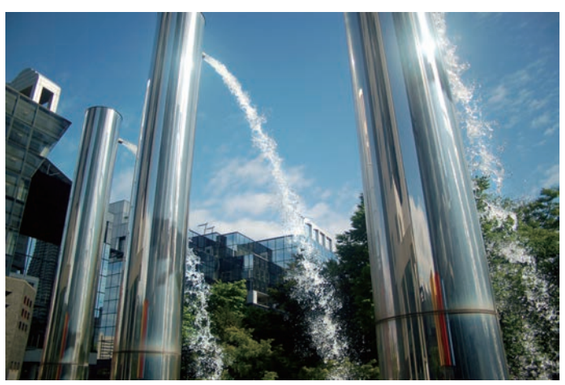
国連の「世界水の日」（3月22日）にちなんで、世界と水とのつながりを多くの皆さんに知ってもらい、水の大切さを考えてほしいとの思いから、ＪＡＦＳは今春、「水と私たち」をテーマに第1回「水」写真コンテストを企画しました。国内外から24点の応募があり、コロナの影響で延期していた応募作品の写真展と審査会を5月22日～24日、大阪市西区の官報ビル8階とインターネットのオンライン上で開催。会場に来た方41名とオンラインの58名による投票と、審査委員4名による審査の結果、ＪＡＦＳのプロジェクトで新鮮な水が行き渡るようになった村で、水しぶきを顔いっぱいに浴びて喜ぶ少女を撮ったネパールのレシナ・バジュラチャリヤさんの「To every drop water, there is a story of life（水滴の数だけ、命の物語がある）」を最優秀賞に選んだのをはじめ、優秀賞2点、佳作3点の合計6点の入賞作品が決まりました。

開催委員長　米田明正

投票くださった方々から「どれもメッセージ性のある、水と私たちの生活のつながりを感じる写真でした」「とても素敵な写真ばかりで感動しました。水について考え直すことができました」などとたくさんのコメントをいただきました。第2回はさらに大きなコンテストに成長させ、来年の「世界水の日」も、より多くの人とともに水について考える日にしたいと思います。

優秀賞 Being a girl child in village comes with huge responsibilities - 大きな責任を背負う村の女の子（オム・クリシュナ・タンドゥカール、ネパール）

優秀賞 We never know the worth of water until the well is dry - 井戸水が枯れて初めて水の価値を知る（オム・クリシュナ・タンドゥカール、ネパール）



佳作 水と都市（小出 由美）

みなさんのおかげで井戸ができた村

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

生命（いのち）の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

ご寄付には税の優遇措置が受けられます

■井戸１基の建設に必要な費用■（2018年4月現在）

インド＝60万円　フィリピン＝33万円
カンボジア＝28万円　スリランカ＝22万円
ネパール＝17万円（パイプライン＝25～150万円）
バングラデシュ＝浅井戸22万円、深井戸55万円

※５年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を１割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■　・郵便振替 00960-6-10835　アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会へ ☎06―6444―0587

インド

夏も枯れない井戸で生活向上

【寄贈者】株式会社ユニコーン 様

この村は周りを深い森に囲まれており、森に植わっているモハの花や種、竹などの採取、はちみつ採取、さらに農業で生計を立てています。村にはこれまで掘り抜き井戸と開放井戸がそれぞれ１つずつありましたが、夏季になると水が乾き、人々は池の水を使うか、３km先にある隣村まで水をくみに行かなければなりませんでした。今、この村の人々は、新しい井戸のおかげでとても幸せに暮らしています。夏場も水を確保できるようになり、生活が向上しました。

マハラシュトラ州ガッチロリ県ランプリ村
受益者：65世帯３４５人
井戸の形式：ポンプ式（深さ60ｍ）

スリランカ

管理組合を作って次の世代へ

【寄贈者】JAFS宇治地区会 様

ウバ州バドゥラ県プジャナガラヤ村
受益者：11世帯48人
井戸の形式：露天式（深さ8・5ｍ）

村の気候は、年間通して非常に暑く乾燥しています。昔掘られた浅い井戸は水量も少なく、飲料には不適でしたが、他に水源がなく、その水を飲まざるを得ませんでした。井戸が寄贈され、干ばつのときでも心配せずに水を得られるようになりました。今までは毎日どのように水を手に入れるかが大きな悩みでしたが、安全な水が得られる井戸が完成し、とても喜ばれています。次の世代も安全な水が使えるよう井戸の水を守っていくために、村に組合を作って維持管理します。

ネパール

感染予防の手洗いができる

【寄贈者】谷口ちゑ子 様

この学校のある地域は、社会的に弱い立場の人々が多くいます。以前は学校に校舎もなく、1993年にJAFSを通じて校舎を建設しました。その後も当会は、子どもたちの健全育成、学校を通じての良き地域づくりなどをめざして活動続けています。この井戸ができるまでは、学校生活の中で定着している給食や清掃活動ができず、子どもたちへ安全な水を供給することができませんでした。井戸のおかげで、コロナ感染予防の手洗いも行えるようになりました。

第４州ナワルプル郡カワソティ市第13区スリーサンティ小学校
受益者：160人　井戸の形式：手押しポンプ式＋水道（深さ９ｍ）

小さな子どもに清潔な水

【寄贈者】一般財団法人H_2Oサンタ 様

第４州ナワルプル郡カワソティ市第13区ゴイリ村
直接受益者：25人、間接受益者：１３２世帯
井戸の形式：手押しポンプ式（深さ６・１ｍ）

ここは、ムサハール族が住む地区です。彼らの多くは15年前洪水で住居を流されて住まいを転々と変え、この地を新たな永住地としました。現在は132世帯となり、今も増加しています。ムサハール族は不可触民の社会に属しており、さまざまな差別に遭っています。多くは定職を持たず、貧しい人たちがほとんどです。これまで水を確保することに大変苦労していましたが、今は水があり、小さい子どもたちをケアする上で、手や顔を洗うなど清潔を保つことが容易になりました。

子どもを泣かせず水くみできる

【寄贈者】田代 博 様

受益者の声です。「私たちには小さな子どもがいますが、これまでは子どもを置いて水くみをさせてくれる井戸を探し、戻ってきたときに泣きじゃくっていることが何度もありました。また、水を十分に使えないため、子どもが手を汚したり顔に食べ物をつけても、すぐにきれいに洗ってあげることができませんでした。しかしこの度、とてもきれいな水を、生活の場で得ることができるようになりました。安堵した気持ちで生活できるようになり、心から感謝しています」

第４州ナワルプル郡カワソティ市第13区ゴイリ村
直接受益者：16人、間接受益者：１３２世帯
井戸の形式：手押しポンプ式（深さ６・１ｍ）

2021年の活動報告 みなさまのお力で達成できました

さらに各国から要請が来ています 2022年の支援事業

2021年度もコロナ禍による種々の行動制限が国内外とも続く困難な状況ながら、必要な活動は最小限遂行できました。特にコロナ募金へのご寄付により、コロナの影響を受けた国内外の生活困窮者への支援を最優先で行いました。従来のアジア支援活動は、現地情勢に応じ必要不可欠なものを実施、他は中止･延期しました。2022年度も様々な支援要請が来ています。アジアの人々と連携し、貧しい人々の経済的自立に向け取り組み続けます。

水事業

パイプラインと井戸61基を完成

2021年度はアジア6カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の農村地域40カ所に、飲料水の井戸およびパイプライン計61基を完成することができました。遠方への水くみを強いられていた人々の生活を改善でき、コロナ感染予防のための衛生環境改善にもつながりました。

これによりアジア各地に贈った井戸は、累計2211基となりました。

2021年夏季募金でインド・マハラシュトラ州ダルマプール村にできた井戸

貧困対策事業

農村の所得向上、障がい者支援

2021年度の小規模産業育成・職業訓練事業は次のようでした。

インド・マハラシュトラ州アムラワティ県の女性グループの養鶏事業は、コロナの影響により実施できませんでした。

カンボジアでは、農村世帯の所得向上を目指した小規模零細事業への資金提供は、コロナの影響により実施できませんでした。

ネパールではインドラワティ村の継続的な農業振興活動に向けて、人材育成のために、村の若者に対して農業専門高等学校への奨学生支援をしました。

フィリピン・ソルソゴン州では農漁村の所得向上を目指し、マングローブ植林地の整備や漁場づくりの継続のほか、海ごみ対策活動を開始しました。農村地域の生活困窮者の収入向上のためには、有機肥料による土壌改良、養殖池の設置、実習のための農園づくりを開始しました。

フィリピン・アンティーケ州パンダン町の障がい者に対し、通院や福祉機器運搬の協力、またコロナ下での困窮に対し救援物資を配布しました。障がい児童の卒業後の自立を目指し、再生プラスチックエコブリック製造機材を支援しました。

インド・ムスカ村の診療所で診察を受ける患者

保健衛生と医療を支援

インド・マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営を支援し、看護師1名の常駐、医師1名の週1回派遣により、定期診療できる体制を整えました。また酸素濃度計や血圧計、車椅子など不足していた医療機器を導入し、医療基盤を整えました。

ネパールのシンドゥパルチョーク郡、カトマンズ郡、ナワルプル郡の農村女性を対象に、健康維持のための講習、生理用ナプキンの配布を予定していましたが、コロナにより実施できませんでした。現地でナプキンを製作するために、女性6名に講習しました。

提携NGOの運営助成

JAFS現地提携団体の運営とマネージメント強化のために、RUDYAとHDSI（インド）、KAFS（カンボジア）、SARVODAYA（スリランカ）に運営費を助成しました。

環境事業

植林や環境教育で未来づくり

インドネシア・アチェ州で、防潮林としてマングローブ6千本の植林と、小・中学校での海洋環境保全教育を行いました。ポスター掲示による環境啓発や、河川と海の清掃活動も実施しました（公益信託地球環境基金助成）。

ネパールで、森を守り村民が憩う公園を創るため750本を植林しました。コーヒー栽培による緑化を開始し、日陰樹100本とコーヒー苗200本の植樹、およびコーヒー苗1万床の育苗をしました（「緑の募金」公募事業）。

バングラデシュの4県4校で、学校周辺の緑化と環境教育のため、ジャックフルーツ3千本を植林しました（連合･愛のカンパ中央助成）。

フィリピン・アンティーケ州パンダン町で、水源の森保全のための苗木づくりをしました。

スリランカでは、ラトナプラ県の5地区にて果樹など660本を植林し、青少年が育成に携わりました。

村の環境保全のための植林（スリランカ・ラトナプラ県）

グリーンスカウト運動セミナーや水源林植林

1986年に発足したグリーンスカウト運動（環境保全市民運動）は、現地提携団体を中心に、地球環境保全に関する様々な啓発活動をしています。

インド・マハラシュトラ州の学校でグリーンスカウト啓発プログラム、および200本の植林をしました。

ネパールのインドラワティ村では、環境ジュニアリーダーと地域リーダーがごみ分別講習を受け、焼却炉兼ごみ箱を10カ所に設置しました（りそなアジア・オセアニア財団助成）。また2カ村4校にて、3R活動、地域や学校の清掃美化活動、植林を行いました。

フィリピンでは、各地域で環境学習や清掃活動などを推進しました。

スリランカでは、学校を拠点に環境学習や清掃活動に取り組みました。

再生可能エネルギー推進

ネパールでは森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため、牛糞発酵バイオガスの普及を促しました。シンドゥパルチョーク郡の20世帯に各1基のバイオガスプラントを新たに設置し、薪の年間使用量を51トン削減でき、二酸化炭素排出を年間100トン抑えることにつながりました（一部、りそなアジア・オセアニア財団助成）。

2022年度　水 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容【必要資金(円)】
インド	AFS-Lonara ／ RUDYA ／ HDSI ／ BSVIA	マハラシュトラ州、カルナータカ州	井戸建設【1基60万×9基】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンポントム州	井戸建設【1基28万×15基】
スリランカ	SARVODAYA	全域	井戸建設【1基22万×10基】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ州、ガンダギ州	井戸・パイプライン建設【井戸1基17万×5基・パイプライン1設備30 ～ 120万×18設備】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ジャマルプール県	井戸建設【1基55万×5基】
フィリピン	KALIPI ／ AFS-Sorsogon	全域／ソルソゴン州	井戸・パイプライン建設【1基33万×12基】

2022年度　貧困対策 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	HDSI	マハラシュトラ州	村の女性の雇用促進を目ざした縫製職業訓練【120万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	ムスカ村唯一の診療所において、住民のために医療基盤体制を強化し、運営を継続するための支援をする【108万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ州	山間農村の保健衛生向上、産婦人科充実の支援と、性に関する女性の意識向上や布ナプキン普及による女性の保健状況改善【20万】
		バグマティ州、ガンダギ州	農家の自立促進・農業発展のための（女性）農業組合の確立、農業の担い手育成のための農業専修高校・農業大学への奨学支援【250万】
カンボジア	KAFS	タケオ州	農村の所得向上・貧困緩和のため、小規模零細事業の支援【24万】
フィリピン	AFS-Pandan	アンティーケ州	障がい児童が勉強して将来自立できるよう、パンダン障がい者協会を通して通学や職業訓練などを支援【50万】
	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	農漁業で生計を立てる貧困層の人々のために、漁場となるマングローブの植林や有機農業の推進を行う【50万】

2022年度　環境 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ州、ガンダギ州	森林伐採が進む中、コーヒー植林のための苗木づくり、圃場整備のための高木植林活動、および森林保全整備を支援【280万】
			小学生への環境セミナー、ごみ対策など地域環境保全活動の推進を支援【50万】
			燃料を薪に頼り森林破壊が深刻なため、家畜牛の糞を発酵し、生活燃料にするためのバイオガスプラント設置を支援【70万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県	支援学校内に、環境保全と生活のために植樹し、環境と生活に関する知識向上を図る【47万】
フィリピン	AFS-Philippine	ヌエバエシハ州、アンティーケ州	焼畑や伐採で水源林が破壊され、土砂崩れも招いているため、水源林や、川の土手を保持する竹林を、植林再生【50万】
	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	ごみ管理が整っておらず、川・海・森にごみが捨てられている地域で、環境教育と併せ、生ごみ堆肥化やプラスチックごみ分別リサイクルに取り組み、地域環境や海洋環境を改善【300万】
スリランカ	SARVODAYA	アンパーラ県、ポロンナルワ県	伐採による森林減少と乾燥地域拡大に対し、森林保全・再生および生活向上のための植林と環境保全教育【40万】

5カ国の里子380人に教育支援

子ども 事業

アジア里親の会（教育里親制度）により、アジア5カ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の生徒380名に対して教育資金を支援しました。

コロナ感染対策をしながら授業を受けるバングラデシュの中学生

コロナによる休校後に学校が再開し給食を喜ぶネパールの子どもたち

学校の運営・設備支援

ネパールで予定していた校舎1棟の建設、ラオスの中学生寮1棟の建設予定、バングラデシュの学校10校のトイレ再建予定は、いずれもコロナにより延期しました。

フィリピン・ヌエバエシハ州の2地区102名の子どもたちへ学用品を支援し、学習環境を整えました。

学用品を受け取るカンボジアの中高生たち

HIV／AIDS支援

インド・タミルナードゥ州ディンディガル県とナマカル県で、HIV／AIDSに感染した子どもと家族2世帯の生活と教育を支援しました。

ネパールで栄養指導

ネパール・タライ平野の低所得地域の小学生147名に、学校再開後に卵と牛乳の給食支援をし、子どもたちの栄養状況を改善できました。栄養士育成のための日本留学対象者2名を人選しました。

スラムの子どもたち

インド・マハラシュトラ州ナグプール県のスラムの子どもたち53名に、学習補講を行いました。

フィリピン・マニラ市内のストリートやスラム、また郊外移住地に暮らす子どもたち97名への教育支援とともに、生活習慣、衛生環境改善などの啓発プログラムを実施しました。

ワークキャンプとプロジェクト視察

ワークキャンプはコロナにより全て中止。コロナ後の活動に向けて、各関係団体と相談会を実施しました。プロジェクト視察は、ネパールで3回行いました。

2022年度　子ども 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	SSH	タミルナードゥ州	HIV/AIDSの影響下にいる家族の生活向上支援【21万】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の教育センター(チャイルドアカデミー)の子どもの就学支援、給食・教材支援【20万】
ネパール	AFS-Nepal	ガンダギ州、バグマティ州	地震後の安全基準に則った校舎再建の支援、新教育指針に沿うPCなど学校整備支援【300万】
			学校給食運営の一部補てんと栄養教育による、子どもたちの健全育成。ネパール人による栄養指導を可能とする人材育成【150万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ネトロコナ県	小学校21校のトイレが老朽化し不衛生なため、感染症を予防すべくトイレを再建【100万】
ラオス	LPRYU	ポンサーリー県	教育スポーツ省管轄下の中学校の学生寮が老朽化。生徒たちが安心安全に生活や学習できるよう寮を再建整備【500万】
フィリピン	ASI	マニラ市、カビテ州	路上生活から強制退去となり、新たな地で暮らし始めた家族に対し、子どもと保護者の教育、栄養改善、職業訓練、収入確保を支援【40万】

2022年度　子ども 事業 アジア里親の会 計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【新規要支援里子数】
インド	RUDYA	マハラシュトラ州	少数民族の子が通う日印友好学園パダトラ小学校の教職員給与など運営支援。書籍・設備拡充を支援【45人】
	BSVIA	カルナータカ州	貧農の子どもに教育機会を与える日印友好学園コスモニケタンの運営支援と学習環境の整備【10人】
	SSH	タミルナードゥ州	貧困層およびHIV/AID感染の家庭の子どもが就学できるよう、制服・教科書代、学校運営費などに充てる【7人】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の子どもの就学継続のための啓発活動と、給食や学用品の支援【10人】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンポンチュナン州	農村の子どもが1人でも多く学校に通えるよう、教科書・学用品および課外活動や学校運営の支援【10人】
ネパール	AFS-Nepal	ガンダギ州、バグマティ州	農村貧困層の子どもが1人でも多く学校に通えるよう、就学費や学校運営費などを支援【15人】
バングラデシュ	BDP	ガジプール県、ジャマルプール県	1人でも多くの子どもが学校に通えるよう、学校運営費と就学費を支援【20人】
フィリピン	ASI	カビテ州、マニラ市	路上から新たな地に移住した子どもの教育支援と、家族への教育・栄養改善・職業訓練・収入確保を支援【5人】

2022年度　罹災者支援 事業計画

国	プロジェクト	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	ネパール中部地震災害復興支援	シンドゥパルチョーク郡	2015年の地震被災地の復興と持続可能な地域づくりを目指す活動。実施済みの「水と農業の基盤づくり」に続き、防災システム構築により地域経済を活性化し、自活できるようにする【200万】
アジア各国・日本	新型コロナウイルス感染症対策支援	アジア各国・日本	ワクチン接種が進み行動規制が緩和されているが、これまでのコロナ禍により生活基盤が揺らいだアジアの社会的弱者の生活を支援。必要に応じ、国内留学生など移住者の生活支援も行う【600万】
フィリピン	台風被災者支援	リサール州	2020年12月にフィリピンを襲った台風により大きな被害を受けた被災者の生活復興支援【100万】
共通	災害および緊急対応	共通	災害発生時の迅速な初動活動に向けて、素早い対応ができる体制づくりのために、資金基盤の確保、人材育成とチームづくりを実施【100万】

震災・コロナ・台風からの復興支援

罹災者支援 事業

震災後の復興と持続可能な地域づくりを目指し、農業で生計を立てるため経理研修を受ける農業訓練生（ネパール）

2015年のネパール中部地震被災地からの復興と、持続可能な地域づくりを目指し、シンドゥパルチョーク郡において、外務省「令和2年度日本NGO連携無償資金協力（N連）」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う復興支援事業の3年目となる最終年度事業を実施し、19年度に完成した揚水システムの本線から西側の475世帯に配水するための給水用貯水タンク5基、農業用貯水槽7基およびパイプ敷設を完成しました。これにより、インドラワティ村10地区の千世帯を対象として、持続可能な地域づくりを今後進めるための基盤が整いました。

コロナ支援として、皆さまからいただいたコロナ募金を基に、アジア各地域で命と生活を守るために必要な支援を実施できました（8・9ページに詳細記事）。また国内留学生16名に対して生活費の一部を支援しました。募金以外に認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム「新型コロナ インド変異株危機対応支援プログラム」の資金により、インド・マハラシュトラ州ガッチロリ県の農村地域とナグプール県のスラム地域を対象に、食料、衛生啓発活動、医療の3分野を支援しました。

フィリピンでは、20年度にマニラ周辺を襲った台風ユリシーズの被災者への復興支援とともに、21年12月にパナイ島を横断した台風ライの被災者7地域550世帯に、米・缶詰・毛布・衛生用品などの支援物資を配布しました。

東日本大震災について、パナソニックグループ労働組合連合会と共に被災地視察を行い、植林地が無地保全されていることなど確認しました。

クーデターが起きたミャンマーの市民に対し、食料や義援金を支援しました。

フィリピンを襲った台風ライの被災者に緊急支援物資を配布（アンティーケ州）

国際交流 事業

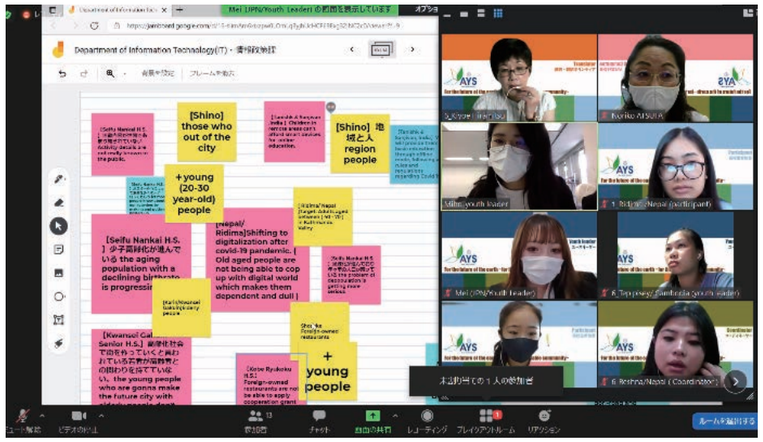
オンラインでアジアと連帯

21年度は第30回アジア国際ネットワークセミナーのスリランカ開催を予定していましたが、コロナのため中止しました。代わりに11月に10カ国38名が参加してオンライン会議を行い、コロナ禍における各国提携団体の近況報告と情報交換を行いました。

第7回アジア・ユースサミットを「地域を良くするプロジェクトを創ろう―コロナ禍で私たちにできること」をテーマに、8月にオンラインで行いました。基調講演やグループディスカッションを行い、各地域におけるユースの役割を共に確認しました。

アジア草の根の自立・連帯基金である「アジア・フレンドシップ夢基金」は世話人会により募金協力しました。

「アジア・フレンドシップ財団」では、インド・タイ・日本の実業家を中心にマイクロクレジットの国際版を行う計画ですが、コロナのため延期しました。



アジア・ユースサミット初のオンライン開催でのグループディスカッション

スタディツアー中止

コロナの影響により全てのスタディツアーを中止しました。

職員研修と奨学金支援

本会のネットワークを将来担うアジア各国提携団体の職員の研修・育成のため、奨学金支援を例年行っています。派遣先であるフィリピンのアジア社会科学院（ASI）の地域開発コースがオンライン開催されましたが、対象者がおらず奨学金支援は行いませんでした。インド提携団体HDSIの後継者1名に対しては、ナグプール大学社会開発学科の学費を支援しました。

海外ボランティア研修制度については、コロナにより募集をしませんでした。

2022年度　国際交流 事業計画

国	プロジェクト	実施場所	内容・意義【必要資金(円)】
日本・アジア各国	アジアユースサミット(AYS)	日本・アジア各国	アジアユースサミットを通じたユースリーダー育成。ユースの定常活動推進と、来年度のサミット開催に向けたプレイベントやユースミーティングなどにより、地域を良くするプロジェクトづくりを通して、国際的視野の養成と国内外のユースのつながり形成【20万】
フィリピン	ASI 地域開発コース支援	アジア社会科学院(ASI)	農村の社会課題を解決し、貧困なき国作りをする次世代育成のため、アジアの国から2名を、大学院大学ASIの2カ月の地域開発コースへ派遣【30万】

●…JAFS国際協力基金…●

「地球幸せ募金」貯金箱式募金	栄養失調に苦しむ子どもたちの栄養改善を目的とした給食基金に充てる。または、今年度プロジェクトのいずれかを支援する
「アジア井戸募金」募金箱設置	各家庭や店などに募金箱を設置し、井戸建設支援に充てる
「アジアフレンドシップ夢基金」募金	アジア18カ国の草の根の人々と共同で、「アジアフレンドシップ夢基金」を募り、アジアと世界のより困窮する人々への支援金とする

国内での普及啓発 事業

国際協力PRとチャリティ活動

国内での2021年度の活動は、コロナ感染拡大状況により、多くを制限せざるを得ませんでした。しかし、広報企画委員会や会員活動に関する各委員会の工夫や努力により、本会の広報と支援事業に関する普及啓発が実施できました。

恒例の住道駅前（大阪府大東市）の**JAFSチャリティバザール**は、コロナのため中止しました。6年目となった**アジアン・チャリティフェスティバル**は、昨年に続き公益財団法人大阪国際交流センターと共催。コロナ感染防止のため、入場者数、飲食の出店やステージ内容を制限して実施しました。映画上映会や留学生によるパネルディスカッション、ゲーム大会などにより、在関西のアジア系市民との交流を深める多文化共生チャリティイベントとして130名の参加がありました。

地区活動やプロジェクト支援グループでも、支援や広報のため、感染対策をとりながら、チャリティイベントやコンサートを実施しました。

国際理解教育講座として、小学校、高校、大学や企業等のべ12カ所に対し、国際理解に関してオンラインを併用して講義しました。学校からの委託授業も受け入れ、1校に対して講義を実施しました。

JAFS**ぞうすいの会**や地区活動の場にて、アジアでの**プロジェクトを報告**し、プロジェクト理解やアジア社会の現状理解を促進しました。

多文化共生社会の実現を目指して計画していた**アジア文化理解講座**は、コロナにより多くが中止または延期となりました。

もりのみやキューズモールASIAN FES2022に出展協力

インターンシップ生6名を受け入れ、海外プロジェクト後方支援やファンドレイジング・広報事業の実習を通して貢献しながら、国際協力活動と市民運動について学びました。

アジア市民大学では、感染拡大による延期を繰り返しながらも、アジアの国の文化理解に向け、専門家による講義と相互交流を11回開きました。

昨年はコロナのため中止した**日本語スピーチコンテスト**を開催し、15名の留学生が出場しました。

法人賛助会セミナーおよび**社員クラブ**はコロナのため開催しませんでしたが、日本語スピーチコンテストに協力しました。

持続可能な未来のために暮らしの中でできることを考える機会として、**SDGsセミナー**を開催し、実践者や専門家からのオンライン講義を3回実施しました。

「今、地球は危ない」をテーマにした**グローバルコミュニティ・カレッジ**を2回開催し、グローバル化した地球の様々な問題について解決の糸口を共に考える勉強会の場としました。

活動情報誌**「アジアネット」**を年4回発行し、事業報告や海外情報について広報しました。特にコロナ禍中のアジアの様子を紹介し、コロナ募金への協力も呼びかけました。ホームページはリニューアルから1年半経過した時点で改善を検討し、寄付募集関連やプロジェクト一覧を中心に改良しました。フェイスブックやインスタグラムなどのSNSやYouTubeによっても、活動ニュースやイベント情報、アジア文化などを随時発信しました。

また各種関係団体と連携し、関西のNGO活動を推進し市民活動の社会意義を広げる活動に協力しています。関西NGO協議会の副代表、国際協力NGOセンターの理事、関西国際交流団体協議会の監事を務めるほか、関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」の実行委員、ユース世代のための国際協力フェス「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」の運営委員として協力しました。

関連市民活動として、関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイOSAKAも、各設立趣旨に沿って活動しました。

「土水」や環境保全活動

第37回**「土と水と緑の学校」**を8月に和歌山県新宮市で、同じく**美山「土と水と緑の自然学校」**も3月に京都府南丹市美山町で開催予定でしたが、コロナのため中止しました。

本会が提唱した**国際グリーンスカウト活動**として国内各地域でも活動しています。吹田部会は、コロナによる中止を除き毎月1回の例会と川清掃活動

を実施しました。また日本とアジア諸国が共にごみ問題に取り組む**AFSブルーオーシャンレンジャー**活動を新たに開始し、11月に日本・フィリピン・インドネシア3カ国5地域で同時に海辺のクリーンアップ活動を行いました。

各地の会員活動

地区活動では、関西地区を中心に、全国11のエリアごとに地区世話人を中心として、本会の活動と理念の普及やアジアとの「理解と協力と連帯」の輪を広げることを目的に、様々な活動が企画されました。コロナのため多くのイベントが中止を余儀なくされましたが、チャリティ企画で得られる資金でアジアを支援することを目的に、可能な限り実施しました。

一方、各地区会に会長・副会長・事務局長・書記から成る組織を整え、7月に地区会長会を実施したほか、会員拡大を多角的に考える会員拡大諮問会議を8月から計5回開催し、新たな方策を議論しました。

各地区活動として以下のようなイベントが開催されました。アジアンホームパーティ／JAFS高槻、緑とふれあう会（農作業）／第2エリア、大阪おもしろウォーク・歴史散歩／なにわ西、子ども国際交流ひろば・里子支援バザー／南河内・松原地区、アジア勉強会・チャリティウォーク／第5エリア、フレンドシップディ参加／第6エリア、ドリアンチャリティバザールINまどか村／生駒地区会、どんぐりフェスティバル／奈良地区会、佐藤手芸教室バザー・チャリティ玉手箱展ミニバザー／第8エリア、グローバルフェスタ参加・ブルーオーシャン作戦／第9・10エリア、など。

プロジェクト支援グループ

海外プロジェクト支援を目的とする16グループが、コロナ感染対策を講じながら、様々なイベントやチャリティ活動による海外支援事業の応援を、精力的に展開しました。

活動したグループは以下の通りです。JAFS本部で毎月開催し贈水を雑炊により支援する「ぞうすいの会」、里親の会を手作り和紙クラフトで支援する「アジア井戸ばたサロン」、スリランカの提携団体を支援する「スリランカ・サルボダヤ友の会」、日印友好学園コスモニケタンの運営を支援する「日印友好学園支援会」、ネパールの活動を支援する「ネパールへのかけ橋」、料理を活かした活動で水支援をする「PAON」、シルクロードを中心に文化を学び理解し合う「オアシス会」、アジアの若手に人材育英資金を支給する「アジアネットワーク奨学会」、ネパールの教育を支援する「ネパール子ども夢基金」、農村の医療・保健向上を支援する「ネパール地域医療支援会」、飲料水支援をしたフィリピン・パンダン町と交流を継続する「パンダン交流会」、毎月の例会を通してインド理解を深める「バーラト会」、歌ってチャリティ支援をする「歌声サロン」、インドのHIV家族を支援する「いのちの会枚方」、留学生と日本の学生が支え合う「留学生コミュニティ～Design the Community」、ウォーキングによりアジアフレンドシップ夢基金を支援する「道楽の集い（歩く会）」。

関東地区グローバルフェスタ出展

2022年度　社員総会報告

公益社団法人アジア協会アジア友の会第11回社員総会を下記の通り開催しました。社員総数192名の内、出席社員数147名（会場出席者・議決権行使書提出者の合計）であり、定足数97名を充足し総会が成立しました。

日時: 2022年6月11日(土) 14時～15時30分

会場: 大阪科学技術センター（大阪市西区）

議案 I: 決議事項

第1号議案「役員の選任」の件について、理事37名が選任されました。第2号議案「2021年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)、同附属明細書及び財産目録の承認」の件については、全て承認されました。

議案Ⅱ: 報告事項

コロナ対策として時間短縮のため、下記①②③のうち事業報告を除き、事前配布冊子による確認に止め、詳細説明を割愛しました。①2021年度事業報告並びに同附属明細書について ②2022年度事業計画について ③2022年度収支予算書について。特に質問や意見はありませんでした。

役員一覧　（2022年6月～）

役職	氏名	経　歴
会長	篠原勝弘	(公財) CIESF 理事兼カンボジア代表、元 駐カンボジア特命全権大使
理事長	湯川　剛	(株) OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
副会長	小原純子	(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
副会長	櫻井紘哉	元 (株) 三和銀行 管財部長
副会長	法花敏郎	元 朝日ビルディング 社長
専務理事	村上公彦	日本基督教団寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	吉田俊朗	元 ユニチカ（株）監査役
理事	熱田親憙	NPO 法人ネパールヨードを支える会 理事長
理事	池田直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
理事	市川　晃	税理士法人 ANd 代表社員、税理士
理事	井上勇一	日本基督教団洛南教会 牧師
理事	上野孝一	寝屋川十字の園 顧問・理事
理事	沖田文明	(特活)関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
理事	金井英夫	元IBM-Japanコンサルティング事業部ソリューションコンサルタント次長
理事	暮部恵子	(株) クレコス 代表取締役会長、商業界近畿女性同友会 会長
理事	桒村壽子	(有) 天王寺英数学院 代表取締役
理事	齋藤公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン 編集長
理事	坂口久代	関西イタリア語文化センター 代表
理事	佐藤正隆	リタワークス (株) 代表取締役、コングラント (株) 代表取締役
理事	佐野光彦	神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授
理事	實　清隆	奈良大学 名誉教授
理事	〆木泰輔	エーゼル（株）代表取締役社長
理事	寺西浩章	(宗) 家原寺 代表役員
理事	鳥居建十	環境技術建設（株）代表取締役
理事	永島智子	イオングループ労働組合連合会会長、イオンリテールワーカーズユニオン中央執行委員長
理事	中野稔子	日本創生神楽連合会 顧問
理事	西田貞之	(有) 西田興産 会長、元大阪府職員
理事	端無　勝	(株) デュアルエデュケーション 代表取締役
理事	福澤邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
理事	藤原正昭	行岡保健衛生学園 顧問
理事	松原　正	(株) かんぽう 代表取締役
理事	宮川眞一	(医) 鶯友会 牧病院 診療部長・心療内科部長
理事	宮野谷 篤	(株) NTTデータ経営研究所 取締役会長、元日本銀行理事大阪支店長
理事	森本榮三	森本グリーンサービス 相談役
理事	柳井一朗	日本キリスト教団洛西教会 主任担任教師(牧師)
理事	米田明正	(株) グローアップ 代表取締役
理事	渡辺治彦	(株) 関電システムズ システムアーキテクト

収支決算書（2021年4月1日～2022年3月31日）

［1］収入の部　（単位円）

科　目	予算額	決算額	差　異
1. 会費収入	23,900,000	17,352,200	6,547,800
（1）社員会費収入	5,280,000	4,392,000	888,000
（2）維持会費収入	8,400,000	6,744,000	1,656,000
（3）賛助会費収入	4,800,000	3,364,200	1,435,800
（4）学生会費収入	0	0	0
（5）団体会費収入	400,000	100,000	300,000
（6）法人賛助会費収入	5,000,000	2,750,000	2,250,000
（7）ジュニア会費収入	20,000	2,000	18,000
2. 募金・寄付金・補助金収入	122,270,000	121,814,400	455,600
3. 負担金収入	11,300,000	4,057,510	7,242,490
4. 為替差益	0	2,800,985	△ 2,800,985
5. 受取利息	2,000	421	1,579
6. 雑収入	28,000	3,660	24,340
当期収入合計A	157,500,000	146,029,176	11,470,824
前期繰越収支差額	5,939,957	5,939,957	0
収入合計C	163,439,957	151,969,133	11,470,824

［2］支出の部　（単位円）

科　目	予算額	決算額	差　異
1. 事業費	78,930,000	47,471,833	31,458,167
（1）水（井戸・飲料水供給）	25,360,000	16,527,341	8,832,659
（2）子ども（里親・教育・学校建設）	26,440,000	8,801,408	17,638,592
（3）貧困（生活自立・職業訓練）	4,020,000	3,473,764	546,236
（4）インド職業訓練学校建設事業	0	708,863	△ 708,863
（5）環境（GS活動・植林・バイオガス）	6,760,000	6,707,771	52,229
（6）ネットワーク推進事業	2,050,000	1,460,270	589,730
（7）人材交流・育成事業	5,500,000	2,358,325	3,141,675
（8）地域広報活動事業	5,400,000	6,772,651	△ 1,372,651
（9）環境保全・啓発教育事業（土水）	3,400,000	661,440	2,738,560
2. 災害特別助成金支出			
（1）災害等罹災者支援事業	3,200,000	26,090,212	△ 22,890,212
（2）ネパール地震復興支援事業	43,000,000	50,540,436	△ 7,540,436
（3）フィリピン台風被災者支援事業	1,000,000	932,480	67,520
3. 管理費	31,370,000	18,523,440	12,846,560
4. 退職給付引当資産取得支出	0	397,750	△ 397,750
5. 敷金取得支出	0	0	0
6. 基本財産振替支出	0	0	0
7. 予備調整費	0	0	0
当期支出合計B	157,500,000	143,956,151	13,543,849
当期収支差額A－B	0	2,073,025	△ 2,073,025
次期繰越収支差額C－B	5,939,957	8,012,982	△ 2,073,025

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）
2022年3月1日～5月31日

●社員会員
市川晃／濱岡喜範／松川一人
●維持会員
永川敏／玉田元美／野田範一／美濃岳
●賛助会員
小寺信子／渋江理香／関一也
●ジュニア会員
野田麗菜
●団体会員
㈳はたらく馬牧場
●里親会員
今井田尚久／対馬龍祐／野月晃樹

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）
2022年3月1日～5月31日
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費
秋山賀子／浅野弘／安達英行／熱田親憙／熱田典子／天野紀／池田邦子／池田悦子／池本修／石田雅昭／石原基義／上田高久／上野孝一／宇野稔／大石みどり／大谷タカコ／大野嘉宏／大原映子／大本和子／岡田遥／岡本厚／岡本佳子／小澤勇／小山田宗弘／柿島裕／笠谷正博／加藤喜代子／金井英夫／栢下壽／川合千代子／川上知子／川崎壽／北田嘉信／北野光三／北山典彦／金昌則／草加節男／桒村壽子／古賀旭／古賀範久／小林久仁子／近藤眞道／櫻井紘哉／佐々木実／佐藤眞子／佐藤道代／佐藤満昭／佐藤理香／更家充／篠原勝弘／島井宏子／下山浩二／杉林則子／平興隆／髙垣靖／高田晃宏／辰西幹夫／田中壽美子／田中政直／谷岡康男／谷和弘満／津川美世／辻川楠美／土屋菊男／藤間孝子／藤間剛／富田和政／冨松英二／鳥居京子／内藤能田芳孝／山口妙子／山崎兄・恒子／山田伸枝／山野和子／山道祐子／山本七夕子／山本晴子／湯浅公太／湯浅洋子／行廣真紀／横井文／吉田聡子／吉田廉／吉用トモ子／義本奈々／愿山紀代／若杉徹朗／若林美幸／若山治子／和田みな子／綿田元松／渡辺彩智子／渡辺豊子
●ジュニア会費
徳永健／徳永優／野田麗菜
●団体会費
大阪友の会／日本を良くする会
●法人会費
イオンリテールワーカーズユニオン／㈳エール学園／㈱エムピ／㈶大阪府国際交流財団／岡三証券㈱／㈱グローバル／関西電力労働組合京都地区本部／京セラ労働組合本部／㈱グローアップ／㈱宝屋／㈱ツールオカフジ／㈲西田興産／日広機設㈱／日東薬品工業㈱／㈱ビケンテクノ／㈱フラットエージェンシー／㈱ユニコーン
●里親会費
浅香真理子／アジア井戸ばたサロン／池上正子／石原歩／石原基義／伊藤誠／岡部美和／奥野憲一／川端美智子／絹田悦子／木下敏子／木村依江／久留須眞由美／児下美恵／小西孝彦／小林久仁子／今野裕章／斉藤渡／佐藤潤子／佐藤正明／下村蓮実／平真知子／高橋恵／田中修／田中和子／谷綛安雄／坪内廣次／徳永昌彦／中島綾／中村弓絵／西澤純／西宮教会婦人会／西山美菜子・千晶・敦記／能登秀美／畠山房子／濱口薫翠／日生下卓／ピグマリオン学院奈良教室／平川哲也／藤原勝徳／前田恵美子／前田泰子／松原直弘／三里健一／水野結乃美／三宅詩佳／武藤英利矢／村上聡代／森利明／安永拓史／山岡輝清／山本由起子／山脇哲／吉田聡子／渡部司
●一般寄付
熱田親憙／市橋精機㈱／上野孝一／エーゼル㈱／枝川豊／大神光司／大久保洋子／金井英夫／KANAUショップ／㈱かんぼう／國松正輝／桒村壽子／酒井聖／櫻井紘哉／篠原勝弘／渋江理香／認定こども園すみれ幼稚園／ソフトバンクつながる募金／手嶋寛／冨松英二／樋口雅軌／藤原正昭／㈱PENSEUR／法花敏郎／眞砂哲志／松本静枝／宮野谷篤／村上公彦／森本榮三
●井戸指定寄付（募金箱より）
幾谷昌彦／糀矢美智
●井戸指定寄付
蛯名健仁様、加奈子／角英樹
●井戸積み立て
㈶H2Oサンタ／JAFSぞうすいの会
●井戸建設支援
○ネパール
JAFSネパールへのかけ橋／松並淳／吉田敬市
○カンボジア
㈱国元商会／㈱ユニコーン
○スリランカ
㈱国元商会／㈱グローアップ／相良拓弥／㈱ユニコーン
○バングラデシュ
㈱グローアップ
●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／岡本圭司／古賀旭／中島和子／村上公彦
●アジア・フレンドシップ夢基金寄付
JAFS歩く会／坂口久代／杉本卓也／ドリアンプランニング／中野厚子／中野俊子／宇田和博／山口妙子
●アジア・子ども支援寄付
石原基義／伊奈徹／井上勇一／宇治教会／大石みどり／カトリック至聖贖罪修道女会／(公財)毎日新聞大阪社会事業団／松尾慶治／箕裏奈緒／集めるキャンペーンより
●アジア植林支援寄付
岡本朋子（スリランカ）／㈱日本入試センター（ネパール）
●インドムスカ村医療支援
河野直子／田中元孝
●インド・HIV子どもと家族支援会費
苗村登美子
●インドパダトラ小学校支援
戸田恭子
●コスモニケタン指定寄付
海津加代子／JAFS高槻／戸田恭子
●スリランカ・サルボダヤ支援会費
岡本佳子／松原直弘
●ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸
●ネパール栄養改善教育支援
大阪西ワイズメンズクラブ／塩尻加代子／東代清隆／中西豊次／前田美津代／吉田敬市／渡辺治彦
●ネパール・ピトゥリ支援会費
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／宮本博幸
●ネパール子ども夢・基金
鎌田勝江
●ネパール地震被災者支援寄付
元橋亮治
●ネパール貧困対策指定寄付
東代清隆
●ネパール学校建設支援寄付
福永有花／横田美智子
●フレンドシップ国際基金
奥田順／梶田安彦／駒野秀典／坂上耕造／出口貴之／西田真之／橋本隆／法花敏郎／松見昇／毛利吉男／山本宏昭／吉田俊朗／米田明正
●ブルーオーシャンプロジェクト
㈱デザインワークス／ブルーオーシャンレンジャー
●東日本大震災復興支援寄付
元橋亮治
●ラオス学生寮指定寄付
熱田典子／天野紀／川崎隆二／暮部恵子／桒村壽子／相良拓弥／佐々木実／塩月裕朗／中西豊次／法花敏郎／吉田恵子／渡辺治彦
●新型コロナウイルス緊急募金・災害等罹災者支援募金・緊急支援募金
秋山タカ子／穐山常男／浅井聡子／浅井聖人／熱田典子／天野紀／荒井明美／粟野アツ子／安藤幹雄／幾谷昌彦／池田ミオ子／池田美奈子／井坂猛／石田武／伊藤亮三／伊奈徹／井上香苗／井上勇一／井場弥生／岩本郁子／上田律子／上野道善／上村いつ子／宇田和博／疇地道俊／梅本隆司・富実子／円頓寺／大岩典代／大塩節子／大塩光代／大杉利幸／大橋一同／大本和子／大山行雄／小笠原良二／岡田経子／岡藤茂夫／岡本康江／小川良文／沖田哲男／奥田順／小椋加代子／加芝ナミ子／柏木道子／粕谷香代子／勝成忠／加藤弘量／神谷尚孝／上村みちえ／川西秀樹／上林繁子／菊池哲也／岸本啓子／喜多川光平／北野与志江／嶽盛和三／木下達雄／木下良子／高松雅／木村育世／木村依江／葛谷友子／久保田篤・敬子／栗山拓／松野正剛／神戸東部教会教会学校／児島裕子／小代利子／齋藤正健／浄土宗西方寺／作田和彦／佐藤惠美子／佐藤正明／佐藤美千代／左野菜穂子／佐野百合子／澤田武憲／澤田安子／三本松三津江／塩尻加代子／四國うどん讃岐路／重吉孝一郎／設楽宏幸／柴谷享一郎／島津博義／庄子幸子／正傳寺／正法地圭／正法地由紀子／勝楽寺／新羅和子／杉本明子／鈴木千草／西福寺／瀬尻芳子／田岡佳子／髙木光子／髙島純子／高畠千春／田川久美／田口裕子／田中裕江／田中静枝／田中通成／谷浦芳夫／谷阪洋子／地本英子／土倉智美／坪内廣次／手束光子／寺山正道／土井ルミ子／藤間孝子／中川咲子／中嶋啓子／中塚鞠子／中野為夫・桂子／長浜真美／那須トラピスト修道院／西川龍夫／西田貞之／西田貞之／西野佐恵子／西原八重子／西村節子／西村節子／延原修／畠山ひろみ／畑野峻／英由季／羽田孝彦／濱野千津子／林越洋子／原田和幸／原田ひろみ／はりま平安教会／春重祺子／東野栄子／樋口誠治／日野西光尊／福原智恵子／福山加代子／藤田由紀子／藤原克彦／藤原正昭／藤原増子／船戸康夫／古谷佳世子／細谷泉夫／堀口節子／前田みどり／増山律子／松浦みよし／松浦有理子／松生孝子／松野光伸／松本勝正／岬みち子／水谷惣一／宗本光義／森崎律子／森下正志／森田康代／森本匡昭／矢賀繁之／八木健次／柳田芳孝／山上知佐子／山口かをる／山口香世子／山澤寛子／山下玉英／山下良一／山田伸枝／山野和子／山本晴子／吉居あやを／吉積慶子／吉田敬市／吉田清史／義村小夜子／霊松寺岡村良孝／若林美幸／脇家崇夫／和田一成
●フィリピン台風被災者支援寄付
熱田典子／岡本康江／奥村香保里／加藤繁生／木下良子／京都教会／高谷侑助／田中玲子／Aviolat Daniel／津川美世／中塚鞠子／萩尾千里／林越洋子／松原智秋／水谷惣一／溝渕むつ躬／洛西教会
●助成金
○バングラ教育環境整備トイレ建設
積水ハウスマッチングプログラムの会／積水ハウス㈱
○ネパール環境助成（バイオガス、ゴミリサイクルシステム）
（公財）りそなアジア・オセアニア財団
○フィリピン地域環境改善
TOTO㈱2022年水環境基金
●補助金
○アジアユースサミット
外務省
●物品・日用品等
近藤朋子／設楽宏幸／森田素子／長知子／岡田光浩／マッララジャンマン／東代清隆

新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

●やすふく内科クリニック

予防と検査が大切ながん治療で身近な存在

当院は令和3年9月1日から開院した内科・消化器内科クリニックです。

消化器内科はがんを診療することも多い診療科です。医療は目覚しく進歩していますが、がんの罹患率・死亡率は増加の一途をたどっています。高齢化の影響もありますが、大腸がんはそれを差し引いても増加しています。特に女性は大腸カメラに羞恥心もあり検査を避ける傾向にあり、女性のがん別死亡率で1位となっております。定期的に検査さえ受けておけば……という患者様も多く経験し、予防医療・検査の大切さを重々感じております。

規模の大きな総合病院でしかできない治療も多々ありますが、より身近で相談しやすい存在として、患者様のお役に立ちたいと思っております。また、ご縁あって入会させて頂いたJAFSの活動も、微力ながら医業運営を通じて支援していきます。

大阪府箕面市箕面5丁目12-71パークプラザビル箕面1階
☎ 072-725-8555
代表者：安福智子
連絡担当者：安福宏城

●京都西南ロータリークラブ

13ページに関係記事

子どもたちの明日のため少しでも役立つ

「嵐山こども相撲大会」は小学1～6年生の男女が嵐山中之島公園の特設土俵で友達や親御さんの応援のもと、楽しく相撲を取り、12年を迎えます。また「現代アートにふれる」は、感性が強く育まれるといわれる小学4～6年生を対象に、嵯峨美術大学教授・学生の指導のもと、毎年創意あふれる作品を作っています。コロナ禍で2年間中止しましたが、今年度は会員・先生方・地域の方々とともに開催に向け全力投球中です。

カンボジアへの井戸設置をきっかけに国際奉仕のあり方を熟慮してきました。創立50周年を機にJAFSとネパール栄養士育成事業を立ち上げ、4月に栄養士を目指す留学生を迎えました。ネパールでの女性の社会進出・農村の栄養改善により、子どもたちの健康的な生活のきっかけになればとの思いで、息の長い事業に取り組みたいと考えています。

京都市下京区玉津島町317
スミックビル２階
☎ 075-341-5551
2022-23年度会長：佐藤正行
担当：玉城博和

●環境コラム●

自転車で琵琶湖一周

長年の夢が、5月にようやく実現しました。自転車での琵琶湖一周「ビワイチ」です。サイクリングロード一周193km。ふだん私は最寄駅まで毎日自転車に乗るほか、車を運転できないので、日頃から大概のところへは自転車で行ってしまいます。体力にも自信があったので、完走できると頭では想像していましたが、途中でギブアップというまさかの事態もわずかに想定していました。が、結果として、予想より楽に達成できました！

ただし一緒に回った他のメンバーには、5kmでギブアップする人もあり、ゆっくりペースで大分遅れて100kmをゴールとした人もあり。6人中3人が一周193kmを完走しました。でも一周せずとも各人各ペースで、心地よい風を受けて、琵琶湖の自然を全身で感じて楽しみました。きらきら光る青い湖面、青い空、湖畔の緑。おススメです。

他にも、サイクリングロードは全国各地で整備が進んでいます。よく知られているのは、本州と四国をつなぐ「しまなみ海道」（70km）。全長1487kmという「太平洋岸自転車道」もあります。

日常生活でも近年、自転車レーンが整備されてきました。自転車は、化石燃料や電気などのエネルギーを使わず、消費するのは自分の余分な脂肪!? 環境にやさしい乗り物のはずなのに、日本の交通社会では長年、自動車からも歩行者からも、どちらかと言うと邪魔者扱いされてきました。以前は、交通ルールに則って車道の左端を自転車で走っていても、車にクラクションを鳴らされることがよくありました。自転車側のマナー向上を始め、歩行者･自転車･自動車など様々な手段で通行する人々が、共通の交通ルールや安全意識を再確認することなどソフト面を整えるとともに、より安全な道路環境とするためのハード面の整備も願っていたので嬉しく思っています。2012年に国土交通省と警察庁が策定した「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」、2016年の「自転車活用推進法」公布などが背景にあるようです。

他の国ではどうでしょう。アジアでは、自転車に限らず混沌とした道路交通状況にありますが、自転車の国として知られるオランダについて調べてみました。まず、国土の4分の1が干拓地で平坦なため、自転車で移動しやすい点があります。そして低地が多いため、温暖化による海面上昇で国土水没の恐れがあることから、国民の環境意識が高く、交通政策として自転車優先策がとられているそうです。例えば、自動車関連の税が高く、逆に通勤用自転車購入には補助金があるほか、自転車道や駐輪場の整備も進んでいるようです。

まずは、自転車を安全に楽しんで、好きになってみませんか。　（JAFSスタッフ　川本 裕子）

入会・寄付ご案内

会員となって継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力をお願いいたします。

A．維持会費　年額１口　12,000円（月額1,000 円）
B．賛助会費　年額１口　6,000円（月額600 円＝振込手数料含む）
C．ジュニア会費（高校生まで）　年額１口　1,000円
D．団体会費　年額１口　20,000円
E．法人賛助会費　年額１口　50,000円

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892【口座名 シャ）アジア協会アジア友の会】

一緒に考えませんか？

地球という一つの舟に乗る私たちの問題を、一つ一つ取り上げて解決の糸口を見つける場として、JAFS地球市民大学講座を設けることにしました。

一緒に集まって考えませんか？

◆お問い合わせは、JAFS 柿島まで◆

tel. 06-6444-0587

編集後記

コロナに関する国内の制限が少し緩和され、水際でも、外国人観光客の受入れを一部再開。感染対策意識が人により大きくばらつく状態に入りますが、マスク摩擦を生まないよう互いに思いやりたいと思います。（川）

ものの八十宇治川の網代木にいさよふ波の行方知らずも―柿本人麻呂の歌。行方の定かでない川波に壬申の乱（672年）で敗れたもののふ（武士）の流亡の姿が重なり、疫病と侵略戦争の今も心に響きます。（敏）

国連人権高等弁務官の中国・新疆ウイグル自治区訪問の報に3年前、ツアーで同地を訪れたのを思い出す。区都ウルムチの街角は深夜も警官が立哨。現地ガイドの「ウイグル語は消え去るかも」の一言が耳に残った。（督）

参加費がアジア夢基金への寄付となる「JAFS歩く会」が毎月行われている。先日は〝京都・竹の径〟を歩いた。青々とまっすぐに伸びた竹林が続く道は清々しかった。コロナ禍の中での数少ないイベントだ。（和）

水俣病の惨禍を世界に報じた写真家ユージン&アイリーン・スミス夫妻の評伝『魂を撮ろう』(石井妙子著)を読みました。非を認めない企業、究明を怠る行政。同じ轍を私たちは今も踏んでいないかと怖くなります。（黒）

▲「大きく育って帰ってきてね」。インドネシア、アチェ州バンダ・アチェ（スマトラ島）のランプークビーチで、保護グループが卵から孵化（ふか）させたオサガメの赤ちゃん90匹を海に放流した＝２月25日、10・11ページに記事

◀表紙の写真　戦禍に苦しむウクライナの人々を支援しようと、ピアニスト・瀬田敦子さんのチャリティコンサートが開かれた＝５月21日、兵庫県宝塚市。４・５ページに緊急特集記事「広がるウクライナ支援の輪」

募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835　アジア協会アジア友の会

HPもご覧ください
クレジット寄付もこちら

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14　肥後橋官報ビル５階
☎ 06-6444-0587　FAX 06-6444-0581　E-mail asia@jafs.or.jp
URL: https://jafs.or.jp Facebook: https://www.facebook.com/JAFS.NGO/

2022年7月 150号　発行人：篠原勝弘　編集人：村上公彦
広報企画委員長：法花敏郎
編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善
編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫
川本裕子
印刷製本：あさひ高速印刷株式会社